令和7年度　入学生

介護福祉学科

履　修　の　手　引

（シラバス）

学校法人　南学園
鹿児島医療福祉専門学校

建学の理念
「真　　愛」

愛はすべての根源，常に心にまことの愛を問い，さがし求めながら，自分を磨き，高め，実践して行く姿である。

まことの愛の本質は自己を愛するように他者を愛する自他一如の境地に達することからはじまる。

その中から真の思いやりが生まれ，代償を求めない価値のある愛が芽生える。

教職員も学生も真愛を求めて研鑽することに意味がある。

わたくしの誓い

一，わたくしはいのちを大切にします

二，わたくしは夢に向かって進みます

三，わたくしは品位を尊重します

四，わたくしは規律を守ります

五，わたくしは心身を鍛錬します

（平成12年4月1日制定）

《　目　次　》

介護福祉士養成の教育体系の全体像・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(1)

介護福祉学科の教育目標（「求められる介護福祉士像」と「領域の目的と教育内容等」）・・・・・(2)

令和７年度　授業科目及び担当教員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・(3)

令和７年度　年間講義予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(4)

令和７年度　学年到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(5)

＜ 授 業 概 要 ＞

領域「人間と社会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(6)

領域「介護」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(16)

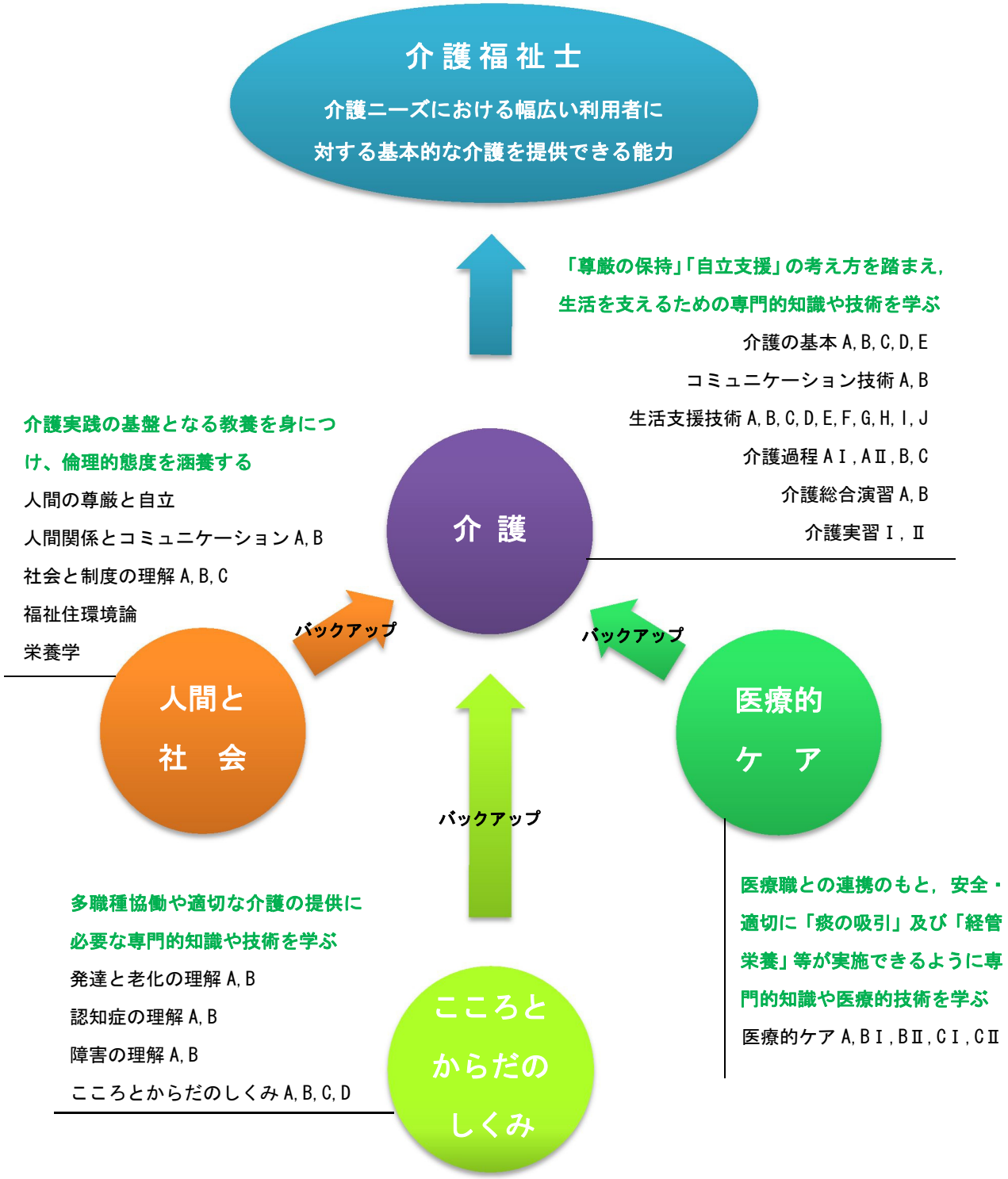
領域「こころとからだのしくみ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(46)

領域「医療的ケア」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(58)

特別科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(66)

介護福祉士国家試験出題傾向一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(76)

介護福祉士養成の教育体系の全体像



本校介護福祉学科では，介護福祉士養成の教育体系の全体像を踏まえ，「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の 3 領域から「介護」をバックアップし，さらに特別科目を設定することにより，高度な介護福祉専門職を養成します．

介護福祉学科の教育目標（「求められる介護福祉士像」と「領域の目的と教育内容等」）

求められる介護福祉士像

1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する
2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる
3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる
4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる
5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って、介護予防からリハビリテーション、看取りまで、対象者の状態の変化に対応できる
6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる
7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する
8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや、的確な記録・記述ができる
9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる
10. 介護職の中で中核的な役割を担う

＋

高い倫理性の保持

	目　的	教育内容	ねらい
人間と社会の理解	1. 福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。 2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。 3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。 4. 介護実践に必要な知識という観点から、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を身につける。 5. 介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。	人間の尊厳と自立	人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。
		人間関係とコミュニケーション	1. 対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 2. 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。
		社会の理解	1. 個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。 2. 対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。 3. 日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。 4. 高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。
介護	1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 6. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。	介護の基本	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。
		コミュニケーション技術	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。
		生活支援技術	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。
		介護過程	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。
		介護総合演習	介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。
		介護実習	① 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。 ② 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。
こころとからだのしくみ	1. 介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。 2. 認知症や障害のある人の生活を支えるという視点から、医療職と連携し支援を行うための、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。 3. 認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。	こころとからだのしくみ	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学習とする。
		発達と老化の理解	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。
		認知症の理解	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。
		障害の理解	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援について理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。
医療的ケア	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。	医療的ケア	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。

令和7年度 鹿児島医療福祉専門学校　介護福祉学科　授業科目及び担当教員一覧

領域	教育内容	科目名	担当教員名	遠隔	年次	前後	単位	時間	掲載頁
人間と社会	人間の尊厳と自立	人間の尊厳と自立	中森 美恵子	○	1	後期	2	30	8
	人間関係とコミュニケーション	人間関係とコミュニケーションA	中川 清美	○	1	前期	1	30	9
		人間関係とコミュニケーションB	西田 一世	○	1	後期	2	30	10
	社会の理解	社会と制度の理解A	久留須 直也	○	1	前期	2	30	11
		社会と制度の理解B	西田・室屋	○	1	前期	2	30	12
		社会と制度の理解C	村山・東	○	2	通年	2	20	13
	選択科目	福祉住環境論	久留須 直也	○	1	前期	2	40	14
		栄養学	大賀　早希	○	2	前期	1	30	15
介護	介護の基本	介護の基本A	長友 ひろみ	○	1	前期	2	30	18
		介護の基本B	満薗 晋也	○	1	前期	2	30	19
		介護の基本C	小園 澄治	○	1	前期	2	30	20
		介護の基本D	小園 澄治	○	1	後期	4	60	21･22
		介護の基本E	寺師　順一	○	1	後期	2	30	23
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術A	鮫島 一枝	○	1	後期	1	30	24
		コミュニケーション技術B	田代　真也	○	2	通年	2	30	25
	生活支援技術	生活支援技術A（環境・睡眠）	室屋　勉	○	1	前期	1	30	26
		生活支援技術B（身じたく）	上水樽 敏子	○	1	前期	1	34	27
		生活支援技術C（移動）	中森 美恵子	○	1	前期	1	30	28
		生活支援技術D（清潔）	室屋　勉	○	1	後期	1	36	29
		生活支援技術E（排泄）	長友 ひろみ	○	1	後期	1	34	30
		生活支援技術F（食事）	川﨑　愛	○	1	前期	1	30	31
		生活支援技術G（被服）	寺師　敬子	○	1	後期	1	30	32
		生活支援技術H（家政）	大賀　早希	○	1	後期	2	16	33
		生活支援技術Ⅰ（ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ）	大村 一光	○	1	前期	2	30	34
		生活支援技術J（終末期）	谷口 立子	○	2	通年	1	30	35
	介護過程	介護過程AⅠ（基礎理論）	上水樽 敏子	○	1	後期	2	30	36
		介護過程AⅡ（基礎演習）	専任教員・坂口	○	2	前期	2	60	37･38
		介護過程B	専任教員		2	後期	1	30	39
		介護過程C	専任教員		2	後期	1	30	40
	介護総合演習	介護総合演習A	専任教員	○	1	通年	2	60	41･42
		介護総合演習B		○	2	通年	2	60	43･44
	介護実習	介護実習Ⅰ　第1段階実習	専任教員	―	1	後期	10	24	―
		介護実習Ⅰ　第2段階実習		―	1	後期		56	―
		介護実習Ⅰ　第3段階実習（訪問）		―	2	前期		32	―
		介護実習Ⅱ　第3段階実習（施設）		―	2	前期		144	―
		介護実習Ⅱ　第4段階実習		―	2	後期		200	―
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解A	髙松 英夫	○	1	前期	2	30	48
		発達と老化の理解B	今林 俊一	○	1	後期	2	30	49
	認知症の理解	認知症の理解A	青柳 信寿	○	1	後期	2	30	50
		認知症の理解B	長友 ひろみ	○	2	通年	2	30	51
	障害の理解	障害の理解A	水流 源彦	○	1	後期	2	30	52
		障害の理解B	石場　・松下	○	2	通年	2	30	53
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみA	早水 由美子	○	1	前期	2	30	54
		こころとからだのしくみB	早水 由美子	○	1	前期	2	30	55
		こころとからだのしくみC	谷口 立子	○	1	前期	2	30	56
		こころとからだのしくみD	早水 由美子	○	1	後期	2	30	57
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアA（概論）	池田　加奈子	○	1	後期	2	24	60
		医療的ケアBⅠ（吸引理論）	上水樽 敏子	○	2	前期	2	28	61
		医療的ケアBⅡ（吸引演習）	上水樽 敏子		2	前期	1	30	62
		医療的ケアCⅠ（経管理論）	谷口 立子	○	2	後期	2	26	63
		医療的ケアCⅡ（経管演習）	谷口 立子		2	後期	1	30	64
特別科目	特別科目	余暇活動支援技術	佐々木・茂谷・平川		2	前期	1	30	68･69
		手話入門	丸岡 麻由美		2	通年	1	42	70
		レクリエーション活動支援	大村 一光		1	後期	1	30	71
		パソコン演習	草宮 めぐみ		1	前期	1	30	72
		キャリア形成論	立元 昭子	○	1	後期	1	30	73
		文章表現	池田　由佳子	○	1	前期	1	30	74
		介護福祉特論	専任教員	○	2	後期	2	30	75

隔授業（オンライン授業）で行う場合があります。

令和7年度　鹿児島医療福祉専門学校　介護福祉学科　講義予定

科目名	時間	1年（1224時間）												2年（942時間）											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人間の尊厳と自立	30							■	■	■	■	■													
人間関係とコミュニケーションA	30	■	■	■	■	■	■																		
人間関係とコミュニケーションB	30							■	■	■	■	■													
社会と制度の理解A	30	■	■	■	■	■	■																		
社会と制度の理解B	30	■	■	■	■	■	■																		
社会と制度の理解C	20													■	■	■	■	■	■	■	■				
福祉住環境論	40	■	■	■	■	■	■																		
栄養学	30													■	■	■	■								
介護の基本A	30	■	■	■	■	■	■																		
介護の基本B	30	■	■	■	■	■	■																		
介護の基本C	30	■	■	■	■	■	■																		
介護の基本D	60							■	■	■	■	■													
介護の基本E	30							■	■	■	■	■													
コミュニケーション技術A	30							■	■	■	■	■													
コミュニケーション技術B	30													■	■	■	■	■	■	■	■	■			
生活支援技術A（環境・睡眠）	30	■	■	■	■	■	■																		
生活支援技術B（身じたく）	34	■	■	■	■	■	■																		
生活支援技術C（移動）	30	■	■	■	■	■	■																		
生活支援技術D（清潔）	36							■	■	■	■														
生活支援技術E（排泄）	34							■	■	■	■	■													
生活支援技術F（食事）	30	■	■	■	■	■	■																		
生活支援技術G（被服）	30							■	■	■															
生活支援技術H（家政）	16							■	■	■															
生活支援技術I（レクリエーション）	30	■	■	■	■	■	■																		
生活支援技術J（終末期）	30													■	■	■	■	■	■	■	■				
介護過程AⅠ（基礎理論）	30							■	■	■	■	■													
介護過程AⅡ（基礎演習）	60													■	■	■	■								
介護過程B	30																			■	■	■			
介護過程C	30																			■	■	■			
介護総合演習A	60			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
介護総合演習B	60													■	■	■		■	■	■	■			■	
介護実習Ⅰ 第1段階実習	24								■																
介護実習Ⅰ 第2段階実習	56												■												
介護実習Ⅰ 第3段階実習（訪問）	32															■									
介護実習Ⅱ 第3段階実習（施設）	144														■	■									
介護実習Ⅱ 第4段階実習	200																		■	■					
発達と老化の理解A	30	■	■	■	■	■	■																		
発達と老化の理解B	30							■	■	■	■	■													
認知症の理解A	30							■	■	■	■	■													
認知症の理解B	30													■	■	■	■	■	■	■	■				
障害の理解A	30							■	■	■	■														
障害の理解B	30													■	■	■	■	■	■	■	■	■			
こころとからだのしくみA	30	■	■	■	■	■	■																		
こころとからだのしくみB	30	■	■	■	■	■	■																		
こころとからだのしくみC	30	■	■	■	■	■	■																		
こころとからだのしくみD	30							■	■	■	■														
医療的ケアA（概論）	24							■	■	■	■	■													
医療的ケアBⅠ（吸引理論）	28													■	■										
医療的ケアBⅡ（吸引演習）	30															■	■								
医療的ケアCⅠ（経管理論）	26																	■	■	■					
医療的ケアCⅡ（経管演習）	30																				■	■			
余暇活動支援技術	30													■	■	■	■								
手話入門	42																		■	■	■	■			
レクリエーション活動支援	30							■	■	■	■														
パソコン演習	30	■	■	■	■	■	■																		
キャリア形成論	30							■	■	■	■	■													
文章表現	30	■	■	■	■	■	■																		
介護福祉特論	30																					■			
総時間数	2166	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

学年 **到達目標**	**【1年（37回生）到達目標】** 1.介護を学ぶ者として、基本的な生活態度を身につけ、自律的な自己を形成する。 2.学生として誠実な態度で学び、基本的な学習態度を身に付ける。 3.専門領域について基礎的な知識を習得し、介護福祉士国家試験受験に向けた意識を持つ。 4.利用者に対する全人的理解や尊厳の保持について学び、豊かな人間性を身に付ける。 5.周囲の人と円滑なコミュニケーションを図るための、基礎的なコミュニケーション能力を習得する。 6.根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすく的確な伝達力や記述力を習得する。 7.基本的な生活支援技術を習得する。 8.人間の生命・健康に直接関わる者として医療的ケアの必要性を理解する。 9.介護実践に必要な介護保険法や障害者総合支援法を中心に社会保障制度・施策についての基礎的な知識を習得する。 10.権利擁護の視点と職業倫理観を形成する。
	【2年（36回生）到達目標】 1.介護を学ぶ学生として責任と自覚を持ち、主体的に学習に取り組み行動することができる。 2.尊厳の保持、自立支援の視点から介護実践につなげる能力を習得する。 3.基本的な介護の知識・技術を習得し、多様化する利用者の介護展開につなげる力を培う。 4.介護過程の理論と実習体験を補完・統合しながら、対象者に応じた介護過程を展開できる能力を習得する。 5.全員が介護福祉士国家試験に合格するとともに、就職率100%を達成する。 6.専門職業人となるにあたっての意識を持ち、学び続ける態度を身に付ける。

人 間 と 社 会

＜領域「人間と社会」の目的＞

1. 福祉の理念を理解し，尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理観を養う。

2. 人間関係の形成やチームで働く力を養うための，コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。

3. 対象者の生活を地域の中で支えていく観点から，地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。

4. 介護実践に必要な知識という観点から，社会保障の制度・施策についての基礎的な知識を身につける。

5. 介護実践を支える教養を高め，総合的な判断力及び豊かな人間性を養う。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
人間の尊厳と自立	講義	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として障害者支援施設での勤務経験を持ち，介護現場における人間の尊厳と自立について講義する。				
中森 美恵子					

[授業の目的・ねらい]

「人間」の理解を基礎として，人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し，介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

人間の多面的理解（自己理解，他者理解），人権尊重と権利擁護（アドボカシー）
自立支援，自己決定

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や配慮すべきことを理解できる。また「・・・ができる」「・・・ができない」というような固定的な尺度を持って自立した生活評価するのではなく，その人が自ら主体的に自己の生活を営もうとすること（主体的に生活を営むことを主眼とする概念）が「自立」であると理解できる。
尊厳とは何か，介護実践を踏まえながら考えることができる.
介護者の自己覚知の重要性を理解し，介護観を培いながら，チームで働くということを理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 人間を理解するということ・尊厳の意味、自律と自立
2 自己覚知とコミュニケーション①（エゴグラム，プロフィールチェック）
3 自己覚知とコミュニケーション②（OK図表）
4 尊厳と自立の思想・歴史的経緯①（世界的潮流と日本の福祉）
5 尊厳と自立の思想・歴史的経緯②（振り返り）
6 虐待①（養護者による虐待と不適切ケア）
7 虐待②（養護者による虐待と不適切ケア 演習）
8 虐待③（家族による虐待 演習）
9 虐待④（家族による虐待 演習）
10 倫理的課題への対応①（介護福祉士の倫理）
11 倫理的課題への対応②（倫理4原則演習）
12 介護福祉士のストレスマネジメント
13 ACP「人生会議」
14 ACP「人生会議」
15 まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「1 人間の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，課題・レポート10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
人間関係とコミュニケーションA	演習	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	産業カウンセラー，ガイダンスカウンセラーとしての勤務経験を持ち，基本的対人関係構築のための演習を行う。				
中川　清美					

[授業の目的・ねらい]

人間理解を進め対人関係作りの基礎を作る。
人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解し，カウンセリングマインドを持って，相手に接することができるようになる。
組織におけるコミュニケーションの特徴を理解し，組織内で求められるコミュニケーションの方法を習得する。

[授業全体の内容の概要]

コミュニケーション理論を簡潔にして要を得た総論的理解を進める。
単に概念的理解にとどまることなく，実際にコミュニケーション技法を使えるように豊富な実習を行う。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

自分に起きている感情や自分の価値観に気づくことができる。
自分の価値観を一時わきに置いて，相手に寄り添った聞き方・かかわり方ができる。
自分の心に誠実に，相手に率直に，自分を語ろうとすることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　コミュニケーション論の位置づけ，導入
2　人間理解の基礎(1)（価値観の違いと自己理解）
3　人間理解の基礎(2)（価値観の違いと他者理解）
4　人間理解の基礎(3)（対人関係と境界線）
5　人間理解の基礎(4)（社会心理学から見た人間関係）
6　人間理解の基礎(5)（人間関係から生じるストレス）
7　人間関係の形成(1)（発達論と構造論）
8　人間関係の形成(2)（介護職支援と対人関係）
9　コミュニケーションの基礎と目的（カウンセリングマインド）
10　コミュニケーションの技法と実際(1)（「あなたを聞く」傾聴の原理と技法）
11　コミュニケーションの技法と実際(2)（「わたしを語る」自己開示の原理と技法）
12　コミュニケーションの技法と実際(3)（組織におけるコミュニケーションの特徴と実際）
13　コミュニケーションの技法と実際(4)（援助的人間関係を形成する技法）
14　コミュニケーションの技法と実際(5)（生活場面面接の理論と技法）
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「1 人間の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
人間関係とコミュニケーションB	演習	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会保険労務士，社会福祉士として勤務経験を持ち，介護実践をマネジメントするために必要な組織運営管理，人材育成等チームマネジメントついて演習する。				
西田　一世					

[授業の目的・ねらい]

福祉サービスを組織的に展開する意義と実践方法について理解することを目的とする。
介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理，人材の育成や活用等の人材管理，それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等，チーム運営の基本を理解する。

[授業全体の内容の概要]

介護サービスの特性を理解し，福祉サービスの供給主体，組織運営，チームケア，人材育成について学ぶ。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

組織運営，チームケア，人材育成の組織マネジメント理論を学ぶことを通じて，組織の中の一員として適切な介護実践ができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　ヒューマンサービスとしての介護サービス
2　介護現場で求められるチームマネジメント
3　介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
4　ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
5　チームでケアを展開するためのマネジメント
6　チーム力を最大化するためのマネジメント
7　介護福祉職のキャリアと求められる実践力
8　介護福祉職としてのキャリアデザイン
9　介護福祉職のキャリア支援・開発
10　自己研鑽に必要な姿勢
11　介護サービスを支える組織の構造
12　介護サービスを支える組織の機能と役割
13　介護サービスを支える組織の監理
14　組織の中の介護福祉職としての実践
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「1 人間の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，中間試験20％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
社会と制度の理解A	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会福祉士及び介護支援専門員として医療機関での勤務経験を持ち，介護保険制度・貧困対策・保健医療・地域生活に関連する制度の基礎的知識について講義する。				
久留須　直也					

[授業の目的・ねらい]

介護実践に必要な観点から，介護保険制度の基礎的知識を習得することを目的とする。
また，貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策及び保健医療・地域生活を支援する制度・施策についても基本的知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

介護実践に必要な介護保険制度，貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策及び保健医療・地域生活を支援する制度・施策を理解する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護福祉士に求められる利用者からの介護保険の相談等に対して的確に対処できる能力を身につけると同時に，他職種との連携ができる能力を身につけることができる。
また，貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策及び保健医療・地域生活を支援する制度・施策についても基本的知識を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　高齢者保健福祉の動向①（歴史・高齢化）
2　高齢者保健福祉の動向②（老人保健法他），高齢者保健福祉に関連する法体系
3　介護保険制度創設の背景と目的，介護保険制度のしくみの基本的理解①（目的）
4　介護保険制度のしくみの基本的理解②（介護認定・特定疾病）
5　介護保険制度のしくみの基本的理解③（利用の手続き・介護給付）
6　介護保険制度のしくみの基本的理解④（利用の手続き・予防給付，総合事業）
7　介護保険制度のしくみの基本的理解⑤（サービスの種類・居宅サービス）
8　介護保険制度のしくみの基本的理解⑥（サービスの種類・地域密着型，施設）
9　介護保険制度のしくみの基本的理解⑦（地域支援事業・地域包括ケアシステム）
10　介護保険制度のしくみの基本的理解⑧（地域包括ケアシステム・地域包括支援センター）
11　介護保険制度における組織，団体の役割
12　介護保険制度の動向
13　貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策
14　保健医療・地域生活を支援する制度・施策
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「2 社会の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。
（追試験および再試験においても上記の評価方法とする）

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
社会と制度の理解B	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会保険労務士，社会福祉士として勤務経験を持ち，社会保障制度に関する基礎的知識について講義する。 介護福祉士として事業所での勤務経験を持ち、障害者制度及び権利擁護に関する基礎的知識について講義する。				
西田　一世・室屋　勉					

[授業の目的・ねらい]

障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ，障害者総合支援法を理解することを目的とする。
人々の権利を擁護する諸制度についての基礎的知識を習得することを目的とする。
わが国の社会保障の基本的な考え方，歴史及びしくみについて理解することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

介護実践に必要な障害者支援の制度の基礎的事項と権利擁護の諸制度について学ぶ。また，社会保障の歴史や体系からその意義や役割を理解し，現代社会における社会保障の課題についても学ぶ。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

障害者の自立支援に資する障害者支援の制度を中心に理解し，介護実践に必要な知識・理解する能力を身につけることができる。
権利擁護に関する相談等に対して的確に対処する能力を身につけることができる。
利用者の自立支援に資する社会保障制度に関し，介護実践に必要な知識を理解する能力を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1	障害者福祉の現状 （室屋　勉）	担当： 室屋　勉
2	障害者福祉の歴史	担当： 室屋　勉
3	障害者を支える法律	担当： 室屋　勉
4	障害者総合支援制度①　障害者総合支援制度の目的	担当： 室屋　勉
5	障害者総合支援制度②　自立支援給付と地域生活支援事業	担当： 室屋　勉
6	障害者総合支援制度③　障害者総総合支援制度の財源	担当： 室屋　勉
7	障害者総合支援制度④　障害福祉サービスの種類と内容	担当： 室屋　勉
8	障害者総合支援制度⑤　協議会と基幹相談支援センター	担当： 室屋　勉
9	虐待防止に関する制度・政策	担当： 室屋　勉
10	成年後見制度と日常生活自立支援事業の全体像	担当： 室屋　勉
11	消費者保護に関する制度や，その他の個人の権利を守る制度	担当： 室屋　勉
12	社会保障制度のしくみ①　年金保険・医療保険	担当： 西田　一世
13	社会保障制度のしくみ②　雇用保険と労災保険・社会扶助	担当： 西田　一世
14	現代社会と社会保障制度	担当： 西田　一世
15	まとめ・終講試験	担当： 室屋　勉

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「2 社会の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90%，授業への参加態度10%の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
社会と制度の理解C	講義	10回	20時間	2年通年	必修

授業担当者及び実務経験の内容	
村山　雅子・東　ますみ	民生委員及び人権擁護委員，行政相談員（村山）として活動し，地域・社会・家族に関する生活者の目線に立った講義を行う。 保健師（東）として地域包括支援センター等での勤務経験を持ち，地域福祉等について講義する。

[授業の目的・ねらい]

個人が自立した生活を営むということを理解するため，個人，家族，近隣，地域，社会の単位で人間を捉える視点を養い，人間の生活と社会の関わりや，自助から公助に至る過程について理解する。

地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ，その実現のための制度・施策について理解する。

[授業全体の内容の概要]

現代とは制度，教育，文化などが違う生活だった高齢者のライフステージをなぞりながら理解し，尊厳を持つことで，現代社会生活の基本的知識を学習する。

地域福祉の考え方，地域創生社会の理念（ソーシャル・インクルージョン），地域包括ケアシステムなどの内容を学習する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持，介護実践の基盤となる教養，総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養することができる。

地域共生社会の実現に向けた制度や施策を理解することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1	生活を幅広くとらえる・生活の基本機能	担当：村山　雅子
2	ライフスタイルの変化	担当：村山　雅子
3	家族の機能と役割	担当：村山　雅子
4	社会・組織の機能と役割	担当：村山　雅子
5	地域・地域社会における生活支援	担当：村山　雅子
6	地域福祉の理念・地域福祉の歴史的展開	担当：東　ますみ
7	地域福祉の充実・災害と地域社会	担当：東　ますみ
8	地域共生社会	担当：東　ますみ
9	地域包括ケア・地域包括ケアシステム	担当：東　ますみ
10	まとめ・終講試験	担当：東　ますみ

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「2 社会の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

本科目において，村山と東がそれぞれ担当する授業の出席時間数が3分の2に満たない者は評価を受ける資格を失う。

終講試験70％，小テスト10％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

なお，本科目の評価は，村山50点，東50点の合計100点満点を最終評価とする。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
福祉住環境論	講義	20回	40時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会福祉士及び介護支援専門員，福祉住環境コーディネーター2級として医療機関での勤務経験を持ち，住環境整備に関する基礎的知識について講義する。				
久留須 直也					

[授業の目的・ねらい]

福祉住環境論では，居住環境の整備を中心に，生活者の視点から住宅・まちつくりなどをみつめ，居住環境整備を行うための基本的知識を習得することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

自立に向けた住環境の整備を行う際に必要な基本的知識を理解する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

利用者ができるだけ馴染みのある環境で，日常的な生活が送れるよう，利用者一人ひとりの生活している状況を把握し，自立支援に資するサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につけることができる。更に福祉住環境コーディネーター検定試験3級の資格取得を目指すことができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 少子高齢社会の現状と課題・高齢者の施策
2 少子化対策の現状と課題
3 日本の住環境の問題点
4 尺貫法
5 在宅介護を支える専門職とノーマライゼーション，老化のとらえ方と老年期の健康度・食事の改善
6 高齢者の運動とヘルスプロモーション
7 障害の種類で変わる自立の方策
8 バリアフリーとユニバーサルデザイン
9 生活を支える様々な用具
10 福祉用具の活用（自助具）・車いす・歩行器・杖
11 手すり・スロープ・移動用リフト・段差解消機・階段昇降機
12 特殊寝台・床ずれ防止用具・入浴関連用具・排泄関連用具
13 住まいの整備のための基本技術①（段差・床材・手すり・建具・色彩・照明等）
14 住まいの整備のための基本技術②（冷暖房・維持管理）・住まいの整備（アプローチ・外構）
15 住まいの整備（玄関・廊下・階段）
16 住まいの整備（トイレ・専門・脱衣室・寝室）
17 住まいの整備（浴槽・キッチン）
18 ライフスタイルの多様化と住まい・安心できる住生活①（高齢者の住まい方）
19 安心できる住生活②（少子高齢社会に対応した住宅）・安心して暮らせるまちづくり
20 まとめ・終講試験

[教科書]

東京商工会議所編『福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂7版』東京商工会議所，2024年
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。
（追試験および再試験においても上記の評価方法とする）

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
栄養学	演習	15回	30時間	2年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	管理栄養士として、福祉施設や地域での食を支える実践活動の経験を持ち，利用者に対する個別性を尊重した家事の支援について講義する。				
大賀　早希					

[授業の目的・ねらい]

食事の意義を理解し，「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し，自らの健全な食生活の実践をもとに，利用者一人ひとりに適した食生活支援能力を身につける。

[授業全体の内容の概要]

食生活の基本をなす栄養・食品・調理についての基礎知識を学ぶとともに，高齢者・障がいのある人の食生活について理解を深める。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

高齢者・障がいのある人の状況に応じた食生活の援助について考察する能力を養い，実践で活かすことができる知識・技術を習得することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　栄養・食品・健康の基礎知識

2　調理の支援と意義，買い物の支援と意義

3　調理①　日常食献立と調理の基本理論・技術（前半）

4　調理①　日常食献立と調理の基本理論・技術（後半）

5　調理②　高齢者と障がいのある人の栄養と機能に配慮した食事（前半）

6　調理②　高齢者と障がいのある人の栄養と機能に配慮した食事（後半）

7　調理③　フレイル予防に配慮した食事（前半）

8　調理③　フレイル予防に配慮した食事（後半）

9　食事摂取基準に基づいた食事計画をわかる

10　献立作成，栄養価計算，発注等の演習

11　調理④　生活習慣病を配慮した食事（減塩食）と配食サービスの利用（前半）

12　調理④　生活習慣病を配慮した食事（減塩食）と配食サービスの利用（後半）

13　調理⑤　生活習慣病を配慮した食事（糖尿病食）（前半）

14　調理⑤　生活習慣病を配慮した食事（糖尿病食）（後半）

15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年

『カラーグラフ食品成分表』実教出版（八訂準拠）

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

介　　護

＜領域「介護」の目的＞

1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し，専門職としての態度を養う。

2．介護を実践する対象，場によらず，様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。

3．本人，家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための，コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。

4．対象となる人の能力を引き出し，本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。

5．介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。

6．各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護の基本A	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として障害者支援施設での勤務経験を持ち，介護福祉士の役割，基本的姿勢等について講義する。				
長友　ひろみ					

〔授業の目的・ねらい〕

介護の意義と役割及び専門性について，介護の歴史や関連法規を通して理解を図り，介護の倫理などを通して介護実践の基本的姿勢を養う。
自立に向けた様々な生活支援とその意義について学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

介護の歴史，介護問題の背景，社会福祉士及び介護福祉士法，専門職能団体の活動，介護福祉士の役割と機能，様々な場面での生活の支援

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護実践は介護を必要とする人を”生活する人”として受け止め，一人ひとりの利用者の意向や生き方，生活習慣など”その人らしさ（個別性）”を大切にした尊厳を守る介護，自立に向けた介護であることを理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　介護の成り立ち・介護福祉職の多様化
2　介護福祉士を取り巻く状況
3　介護の福祉の歴史　～1970年代
4　介護の概念の変遷　①1980年代
5　介護の概念の変遷　②1990年代
6　介護の概念の変遷　③2000年以降
7　社会福祉士及び介護福祉士法と関連する諸規定
8　介護福祉士に求められる役割とその養成
9　介護福祉士を支える団体
10　介護福祉士の倫理
11　日本介護福祉士会の倫理綱領
12　介護福祉士の活躍の場と役割　①地域包括ケアシステム・介護予防
13　介護福祉士の活躍の場と役割　②医療的ケア・人生最終段階の支援・災害支援
14　生活の支援と多職種協働
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「3 介護の基本Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護の基本B	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として介護老人福祉施設での勤務経験を持ち，介護サービスにおけるリスクマネジメントについて講義する。				
満薗　晋也					

[授業の目的・ねらい]

介護サービスにおけるリスクマネジメントの視点から，利用者の安心と安全に配慮した介護の実践能力を養う。

[授業全体の内容の概要]

日常生活上の事故や感染症の防止とその対策，介護従事者の心身の健康管理について学習する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　介護従事者の倫理①「サービス業としての介護」
2　介護従事者の倫理②「人の生活の中に入るということ」
3　介護における安全の確保①　安全の確保とセーフティマネジメント
4　介護における安全の確保②「尊厳の保持」と「安全な暮らしの提供」
5　リスクマネジメントとは何か①　リスクマネジメントの目的・ルールや約束事
6　リスクマネジメントとは何か②　福祉サービスに求められる安全・安心
7　リスクマネジメントとは何か③　介護事故防止のための具体的な方策
8　介護におけるリスクマネジメント　学習のまとめ1　／　中間試験
9　感染症対策①　介護福祉士に必要な知識
10　感染症対策②　安全な薬物療法を支える視点・連携
11　感染症対策③　感染予防に関するまとめ
12　介護従事者の安全①　健康管理の意義と目的　こころの健康管理
13　介護従事者の安全②　からだの健康管理　労働環境の整備
14　介護におけるリスクマネジメント　学習のまとめ2
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「4 介護の基本Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，中間試験10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護の基本C	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会福祉士及び介護福祉士として介護老人福祉施設での勤務経験を持ち，介護福祉サービス利用者の生活の多様性とその人らしさとその生活のしづらさの支援方法について講義する。				
小園　澄治					

[授業の目的・ねらい]

私たちの生活の理解を通して介護福祉サービスを必要とする人の暮らしを事例を通じて理解しその支援のあり方について学ぶ。
「その人らしさ」と「生活ニーズ」を理解し，介護福祉サービスを必要とする人の「生活のしづらさ」とその支援について学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

私たちの生活について理解するとともに介護福祉サービスを必要とする人の生活を理解し，その生活ニーズを把握して，その人らしい生活を支えるにはどのような視点をもち支えていくかについて人的，物的な環境を通して理解する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

私たちの生活と介護福祉サービスを必要とする人の生活についての理解を深め，「生活ニーズ」と「生活のしづらさ」を把握し介護福祉サービスを必要とする人々が「その人らしく」生活するにはどのような視点をもち，どのように支援するかについて理解する。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　私たちの生活の理解（私たちの生活の「時間」「空間」「生活リズム」）
2　私たちの生活の理解（生活にとっての大切な要素の理解）
3　私たちの生活の理解（生活の特性，住んでいる地域や生活習慣の違い）
4　介護福祉を必要とする人たちの暮らし（暮らし=歴史とその特性）
5　介護福祉を必要とする高齢者の事例から（ストレングスやエンパワーメントアプローチの視点）
6　介護福祉を必要とする障害者の暮らしの事例から（ライフヒストリーから見る介護ニーズとその支援）
7　「その人らしさ」「生活ニーズ」の理解（「その人らしさ」とは何か，その人らしさの背景）
8　生活のしづらさの理解とその支援（生活のしづらさについて）
9　生活のしづらさの理解とその支援（家族介護者への支援）
10　「生活のしづらさ」に対する支援（介護の手段と目的）
11　介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ（地域共生社会，地域包括ケアシステム）
12　高齢者を支えるサービス（フォーマルサービスとインフォーマルスサービス）
13　高齢者のためのフォーマルサービスの概要（介護保険制度におけるサービスの種類）
14　介護保険制度におけるサービスの種類（予防給付，介護給付，地域支援事業）
15　まとめ・終講テスト

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「4 介護の基本Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験70％，中間試験20％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護の基本D	講義	30回	60時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会福祉士，介護福祉士及び居宅介護支援専門員として介護老人福祉施設での勤務経験があり，介護福祉サービスを必要とする人の尊厳と自立支援について地域や多職種が連携・協働する必要性について講義する。				
小園　澄治					

[授業の目的・ねらい]

介護福祉サービスを必要とする人が地域でなじみの顔の人たちに囲まれて，よりQOL（生活の質）の高い生活ができるように支援するために必要な地域包括ケアシステムについての知識を深め，それに必要な地域や多職種が連携・協働する意義や介護福祉士に求められる基本的な能力と役割，その実際について理解する。あわせて，介護福祉サービスを必要とする利用者の尊厳と自立支援のあり方や介護予防について理解する。

[授業全体の内容の概要]

介護の基本Ⅱのテキストを使用して，多職種連携・協働の必要性とそれに携わる地域の機関や多職種の基本的な役割と介護福祉士のかかわりとその支援について講義する。
介護の基本Ⅰのテキストを使用して利用者の「尊厳」ある生活と「自立支援」，介護予防についての具体的な支援について講義する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護福祉サービス利用者が住み慣れた地域で質の高い生活を営むことについて，それに携わる地域の機関や多職種の連携・協働が重要であることを理解しその基本的な知識を高め，介護福祉士のかかわりについての基本な能力とその実際について理解する。
介護福祉サービス利用者の「尊厳」の保持，「自立支援」と「介護予防」について理解し適切な支援ができることを目標とする。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　障害者を支えるフォーマルサービスの概要　（介護の基本Ⅱのテキストを使用）
2　生活を支えるインフォーマルサービスについて（フォーマルサービスとの関係やその種類について）
3　地域連携　（地域連携の意義と目的）
4　地域連携　（地域連携にかかわる機関の理解）
5　地域連携　（地域連携のにない手）
6　地域連携　（地域連携の実際）
7　多職種連携・協働の必要性（多職種連携・協働の目的と多職種連携・協働を要請する社会の動き）
8　多職種携・協働の必要性（介護保険制度創設，介護保険制度の動向）
9　多職種連携・協働の必要性（多職種連携・協働を阻むもの，多職種連携・協働の効果）
10　多職種連携・協働に求められる基本的な能力（チームづくりの意義，多様な視点）
11　保健・医療・福祉職の役割と機能（協働するさまざまな職種について学ぶ）
12　保健・医療・福祉職の役割と機能（協働するさまざまな職種の役割と機能を学ぶ）
13　多職種連携・協働の実際
14　演習（高齢者介護における多職種連携・協働の事例をグループで検討する）
15　まとめ・中間テスト

16	介護福祉の基本理念とは（ノーマライゼーション，QOL、利用者主体）＊介護の基本Ⅰのテキストを使用
17	介護福祉の基本理念（尊厳を支える介護）
18	介護福祉の基本理念（基本的人権と日本国憲法）
19	介護福祉の基本理念（自立を支える介護）
20	介護福祉士における自立支援（利用者の権利に基づく自立支援）
21	介護福祉士における自立支援（自立支援の考え方）
22	介護福祉士における自立支援（意思決定の支援）
23	介護福祉士における自立支援（利用者理解の支援）
24	介護福祉士における自立支援（生活意欲と活動）
25	介護福祉士における自立支援（就労支援）
26	介護福祉士における自立支援（自立と生活支援）
27	自立支援におけるエンパワーメントとICFの意義について理解する。
28	ICFにおける生活機能と各因子の相互作用について理解する。
29	ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用する視点を持つ。
30	まとめ・終講テスト

[教科書]	**[評価方法（科目認定の方法及び基準）]**
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「3 介護の基本Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年 介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「4 介護の基本Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年	終講試験70％，中間試験20％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護の基本E	講義	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容 寺師 順一	理学療法士として医療機関での勤務経験を持ち，介護福祉士とリハビリテーションの関係について講義する。				

[授業の目的・ねらい]

リハビリテーションの概念を理解し，リハビリテーションに関わる職種や職種間の連携，チームアプローチを学び，障害別のアプローチ法について理解を深め，リハビリテーション生活支援技術を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

リハビリテーション形態，領域を紹介し，各疾患の特性を学び，特性に基づいたアプローチを身につける。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

リハビリテーションの概念を理解し，各疾患の障害の特性を理解し，それぞれへのアプローチ法を理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 リハビリテーションの理念
2 リハビリテーションの考え方とその背景と歴史
3 リハビリテーションの目的と役割
4 リハビリテーションの領域
5 障害の捉え方
6 介護予防の概要
7 介護予防の実際
8 前半のまとめ・中間試験
9 障害別リハビリテーションの実際（骨折）
10 障害別リハビリテーションの実際（脳血管障害）
11 障害別リハビリテーションの実際（脊髄損傷）
12 障害別リハビリテーションの実際（パーキンソン病）
13 障害別リハビリテーションの実際（関節リウマチ）
14 生活リハビリテーションの実際（実技）
15 後半のまとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「3 介護の基本Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験45％，中間試験50％，ノート内容5％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
コミュニケーション技術A	演習	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	臨床心理士として医療機関での勤務経験を持ち，介護場面における様々なコミュニケーション技術について演習を行う。				
鮫島 一枝					

[授業の目的・ねらい]

介護場面において利用者や家族と関わる場合に求められるコミュニケーション技術を基本的態度と技法の両面について理解し，具体的な活用法を学ぶ。

本人の置かれている状況を理解し，支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。

利用者の抱えるコミュニケーション障害の状態や原因などの特性について学び，生活支援に必要とされるコミュニケーション技術を習得することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

目的にそって，演習を交えながら体得できるように構成する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

コミュニケーションの基本である「話を聴く」とはどういうことかを理解し，場面にあった技法を学ぶことができる。

コミュニケーション障害の状態や原因について理解し，必要とされるコミュニケーション技術の基本的知識を習得することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 自己紹介，授業について
2 介護におけるコミュニケーションの基本
3 介護におけるコミュニケーションとは
4 介護におけるコミュニケーションの対象
5 援助関係とコミュニケーション
6 コミュニケーションの基本技術
7 コミュニケーション態度に関する基本技術
8 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
9 目的別のコミュニケーション技術
10 集団におけるコミュニケーション技術
11 対象者の特性に応じたコミュニケーション
12 コミュニケーション障害への対応の基本
13 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援①（視覚障害～認知症）
14 さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援②（うつ病～重症心身障害）
15 まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「5 コミュニケーション技術」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験70％，授業への参加態度30％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
コミュニケーション技術B	講義	15回	30時間	2年通年	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士，生活相談員として高齢者施設での勤務経験を持ち，他職種連携，記録等について講義する。				
田代 真也					

[授業の目的・ねらい]

家族の置かれている状況・場面を理解し，家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得する。

情報を適切にまとめ，発信するために，介護実践における情報の共有化の意義を理解し，その具体的な方法や情報の管理について理解する。

[授業全体の内容の概要]

記録による情報の共有化，報告，会議

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につけることができる。

的確な記録・記述の方法を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 家族との関係づくり

2 家族への助言・指導・調整

3 家族関係と介護ストレスへの対応

4 チームのコミュニケーションとは

5 報告・連絡・相談の技術

6 記録の意義・目的・種類

7 記録の方法と書き方

8 記録の実際①（入所日の記録・介護記録・チェック表）

9 記録の実際②（家族との連絡記録・ヒヤリハット報告記録・研修の報告記録）

10 会議の意義・目的・種類

11 会議・議事進行・説明の技術

12 事例検討に関する技術

13 情報の活用と管理のための技術

14 コミュニケーション技術の振り返り

15 まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「5 コミュニケーション技術」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術A（環境・睡眠）	演習	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として高齢者施設での勤務経験を持ち，介護現場における環境整備及び睡眠に関する具体的支援について演習を行う。				
室屋　勉					

[授業の目的・ねらい]

尊厳の保持の観点から，その人の自立・自律を尊重し，潜在能力を引き出したり，見守る事も含めた適切な生活支援技術を用いて，安全に援助できる技術や知識について習得する。
日常生活が安楽に送ることができるように，環境整備として実際的な支援を学ぶ。また，睡眠の重要性とリズム，高齢者の特徴を理解し，利用者の疾病，習慣，希望から睡眠行動のアセスメントを行い，個別アセスメントをもとに，不眠対策，安全，安楽な体位等を工夫できる。

[授業全体の内容の概要]

日常生活支援の環境整備の実際と，安楽な睡眠の介護について学ぶ。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な環境整備（特に睡眠環境）についての介護の知識・技術を習得することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　生活環境の整え方
2　ベッド周りの環境整備
3　ベッドメイキングの実際（三角コーナー・四角コーナー）
4　ベッドメイキングの実際（シーツの展開方法）
5　ベッドメイキングの実際（演習）
6　ベッドメイキング（実技試験）
7　シーツ交換
8　「眠る」ことの意義と目的，「眠る」という生活支援の視点と配慮
9　現在の眠り，文化・習慣と眠りに関わる個人の特徴，睡眠障害のパターン
10　災害時の介護支援
11　安楽な体位①（仰臥位で休む）
12　安楽な体位②（側臥位で休む）
13　罨法とは（目的・種類・留意点）
14　罨法の各方法（演習）
15　終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，課題・レポート及び実技試験10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術B（身じたく）	演習	17回	34時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関での勤務経験を持ち，介護現場における身じたくに関する具体的支援について演習を行う。				
上水樽　敏子					

[授業の目的・ねらい]

尊厳の保持の観点から，どのような状態であっても，その人の自立・自律を尊重し，潜在能力を引き出したり，見守る事も含めた適切な生活支援技術を用いて，安全に援助できる技術や知識について習得する。

[授業全体の内容の概要]

自立に向けた身支度の介護

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得することができる。
介護を必要とする人の潜在能力を引き出し，活用・発揮できるようにする事の意義について理解することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　基本となる生活支援技術，実習の進め方について，介護の仕事紹介
2　身じたくの意義，自立に向けた身じたくの介護
3　自立度の高い利用者の更衣介助，着脱介助の原則
4　実習　衣服の着脱の介助の実際（座位）上衣前あき
5　実習　衣服の着脱の介助の実際（座位）上下衣前あき・靴下
6　実習　衣服の着脱の介助の実際（座位）上衣かぶり型
7　実習　衣服の着脱の介助の実際（座位）上下衣かぶり型
8　実習　衣服の着脱の介助の実際（臥位）上下衣前あき
9　実習　衣服の着脱の介助の実際（臥位）ゆかた
10　実技試験　かぶり型上下衣
11　事例演習
12　口腔ケアの基礎と実際　演習：ブラッシング
13　口腔ケアの実際　演習：口腔清拭と義歯の取り扱い
14　身じたくの介助　手浴と爪切り
15　身じたくの介助　髭剃り
16　身じたくの介助まとめ学習
17　終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90%，実技試験およびレポート10%の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術C（移動）	演習	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として障害者支援施設での勤務経験を持ち，介護現場における移動に関する具体的支援について演習を行う。				
中森　美恵子					

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする状態であっても，自立・自律を尊重し，潜在能力を引き出したり，見守りも含めた適切な生活支援技術を用いて，安全に支援できる技術や知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

上方移動，平行移動，歩行介助，移乗・移動，車椅子の介助方法，安楽な体位，福祉用具の活用

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得し，介護実践の根拠を理解することができる。

潜在能力を引き出し，活用・発揮できるようにすることの意義について理解できる。また，利用者のみならず，介護者にとっても負担の少ない生活支援技術を習得することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　移動の意義と目的と移動・移乗における生活支援技術
2　ICFの視点に基づく援助に関する利用者のアセスメント，介護福祉士と他職種の役割と協働
3　視覚障害者の介護
4　車椅子の技法
5　動きの支援の基礎
6　水平移動
7　上方移動，水平移動
8　臥位から側臥位
9　臥位から端座位，端座位から立位
10　臥位から端座位，端座位から立位，歩行介助
11　臥位から端座位，端座位から立位，歩行介助
12　移乗／ベッドから車椅子への基礎
13　移乗／ベッドから車椅子への応用
14　移乗／福祉用具の活用
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「8 生活支援技術Ⅲ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，課題・レポート・授業への取り組み10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術D（清潔）	演習	18回	36時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として高齢者施設での勤務経験を持ち，介護現場における清潔に関する具体的支援について演習を行う。				
室屋 勉					

[授業の目的・ねらい]

介護を必要とする状態であっても，自立・自律を尊重し，潜在能力を引き出したり，見守りも含めた適切な生活支援技術を用いて，安全に援助できる技術や知識について習得する。

[授業全体の内容の概要]

清潔の介護（入浴，シャワー浴，全身清拭，洗髪，足浴）

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得し，介護実践の根拠を理解することができる。

潜在能力を引き出し，活用・発揮できるようにすることの意義について理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 入浴・清潔の意義と目的・他職種連携
2 自立に向けた入浴・清潔保持の介護，入浴のための福祉用具
3 入浴介助の実際
4 入浴介助の実際
5 洗髪
6 洗髪
7 全身清拭
8 全身清拭
9 全身清拭
10 全身清拭
11 全身清拭
12 全身清拭
13 清拭実技試験
14 清拭実技試験
15 清拭実技試験
16 足浴
17 足浴
18 まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90%，課題・レポート及び実技試験10%の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術E（排泄）	演習	17回	34時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として障害者支援施設での勤務経験を持ち，介護現場における排泄に関する具体的支援について演習を行う。				
長友　ひろみ					

[授業の目的・ねらい]

どのような状態であっても，その人の自立・自律を尊重し，潜在能力を引きだしたり，見守ることも含めた排泄の介護における，適切で安全に援助できる技術や知識について習得する。

[授業全体の内容の概要]

排泄の意義と目的，排泄に関する利用者のアセスメント，利用者の状態・状況に応じて安全で的確な介助の技法・留意点

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　排泄の意義・目的
2　自立に向けた排泄における介護技術
3　排泄における介護技術と排泄に関するアセスメントの視点
4　安全・的確な排泄の介助（トイレ・ポータブルトイレ①）
5　安全・的確な排泄の介助（トイレ・ポータブルトイレ②）
6　安全・的確な排泄の介助（尿器・差し込み便器①）
7　安全・的確な排泄の介助（尿器・差し込み便器②）
8　全介助を要する利用者への排泄介助（布おむつ①）
9　全介助を要する利用者への排泄介助（布おむつ②）
10　全介助を要する利用者への排泄介助（布おむつ③）
11　おむつ交換介助の実際（実技試験①）
12　おむつ交換介助の実際（実技試験②）
13　全介助を要する利用者への排泄介助（紙おむつ）
14　排泄に関する様々な介助
15　疾患，内部障害がある人への介護
16　他職種の役割と協働・連携
17　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「8 生活支援技術Ⅲ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，実技試験10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術F（食事）	演習	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士として高齢者施設での勤務経験を持ち，介護現場における食事に関する具体的支援について演習を行う。				
川﨑　愛					

[授業の目的・ねらい]

食生活に不自由を感じる利用者の介護について，基礎的な介護の知識，技術を習得する。利用者の日常生活ができる限り苦痛なく，自然に送れるように，その人の自立・自律を尊重し，潜在能力を引き出したり，見守ることも含めた食事の介護における適切で安全に援助できる介護を学習し，利用者の身体状況に応じた口腔ケアの技術も学習する。

また，服薬の介助において，適切で安全に援助できる介護を学習する。

[授業全体の内容の概要]

食事の意義と目的，食事に関する利用者のアセスメント，「おいしく食べる」ことを支える介護，安全で的確な食事，介助の技法，利用者の状態・状況に応じた食後の口腔ケアの意義，服薬の介助の技法について理解を深める。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護現場に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得することができる。

利用者の口となり手足となって，心身の状況を把握し医療職や他の職種の者へ情報を提供する重要な役割をもっているので，基礎に基づいた観察や実施をすることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　食事の意義と目的
2　食事に関する利用者のアセスメント（栄養と食事）
3　食事に関する利用者のアセスメント（ICFの視点に基づく）
4　食事に関する利用者のアセスメント①（私達はどのように食べているか・・・を知る）＜演習＞
5　食事に関する利用者のアセスメント②（私達の口の動きを知ろう）＜演習＞
6　「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
7　自立度が高い利用者の方と一部介助を要する利用者の介護＜演習＞
8　食事介助の実際（全介助を要する利用者）＜演習＞
9　食事介助の実際のフィードバック（介護職が行う口腔ケアの役割）＜演習＞
10　感覚・運動機能が低下している人の介助の留意点
11　認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点
12　介護職が行う服薬介助の留意点
13　誤嚥・窒息・脱水の予防の為の日常生活の留意点
14　他の職種との役割と協働
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術G（被服）	演習	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	家庭科教員としての勤務経験を持ち，被服に関する基本的知識・技術等について演習を行う。				
寺師　敬子					

[授業の目的・ねらい]

尊厳の保持や自立支援，生活の豊かさの観点から、自立に向けた家事の介護（洗濯・裁縫）の技術と知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

被服の役割と機能・被服素材の鑑別方法・一般的な洗濯の仕方・保管方法について学習する。

裁縫の基礎的技術を学習する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

被服生活の意義と目的を理解し，介護ニーズにおける幅広い利用者一人ひとりに適切な被服管理ができるような知識と技術を身に着けることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　被服生活の基礎知識（被服の起源，被服の機能）

2　被服生活の基礎知識（被服素材）

3　被服生活の基礎知識（被服の種類と選択）

4　被服生活の基礎知識（被服の表示）

5　裁縫の基礎（実習事前準備）　実習着のネーム付け，腕章用のボタン付け

6　裁縫の基礎（実習事前準備）　実習着のネーム付け，腕章用のボタン付け

7　家事の介助の技法　裁縫　衣服の補修（並縫い，返し縫い）

8　家事の介助の技法　裁縫　衣服の補修（まつり縫い，ボタン，スナップ付け）

9　家事の介助の技法　裁縫　衣服の補修（千鳥がけ，コの字縫い）

10　家事の介助の技法　裁縫　衣服の補修（ミシン縫い，仕上げ）

11　家事の介助の技法　洗濯の手順と留意点

12　家事の介助の技法　しみ抜きの方法

13　家事の介助の技法　衣類・寝具の衛生管理

14　そうじ・ごみ捨ての介助　　裁縫（実技試験40分）

15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験60％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％，実技試験20％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術H（家政）	講義	8回	16時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	管理栄養士として、福祉施設や地域での食を支える実践活動の経験を持ち，利用者に対する個別性を尊重した家事の支援について講義する。				
大賀　早希					

の経験を持ち

時代とともに変化する家庭生活を客観的にとらえ，家事支援を必要とする人の自立と個別性を尊重した家事の支援に関する知識・技術の習得を目的とする。

[授業全体の内容の概要]

高齢者，障がいのある人のいる家庭生活を理解し，家事の意義と目的，家事の介助の知識や技法，家事への参加を支える介護の工夫を学ぶ。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう，利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し，自立支援に資するサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につけることができる。また，自らの日常生活における家事をこなすことで，家事支援における観察力や感性を高めることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　「自立した家事」の概念を理解する

2　家事支援の基礎を学ぶ

3　調理の意義，基礎知識と介助方法を学ぶ

4　利用者（疾患別）の食事形態を学ぶ

5　高齢者，障がいのある人の身体機能を考えた食事を考える

6　家庭経営，家計の管理の介助を分かる

7　家事の介護と多職種連携の必要性を分かる

8　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年
『カラーグラフ食品成分表』実教出版（八訂準拠）

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術I(レクリエーション)	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	レクリエーションインストラクターの資格を持ち，レクリエーションの役割や運営方法などについて講義する。				
大村　一光					

[授業の目的・ねらい]

レクリエーションインストラクター資格取得へ向けて，レクリエーションに関する基礎理論や支援の方法，ニュースポーツ等の実技を学ぶことで，福祉現場や地域社会の活動に対して，学生諸君が積極的に取り組んでいけるようにすること。
また，レクリエーション活動をより多面的な視点から捉えるための資質向上も目的の1つとしている。

[授業全体の内容の概要]

レクリエーションの役割，21世紀におけるレクリエーション活動の方向性などの理解を踏まえ，具体的な支援の展開や方法論について学習する。また，実技を通して運営方法についても学ぶ

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

・地域社会および福祉現場における課題や今後の方向性など理解できるようになる。
・利用者のニーズを理解し，ニーズに合致した計画・立案ができるようになる。
・支援の展開や方法論について理解できるようになる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　レクリエーション概論
2　楽しさを通した心の元気づくりと対象者の心の元気
3　心の元気と地域のきずな
4　地域とレクリエーション （本県の現状と課題）
5　コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
6　ホスピタリティトレーニング （信頼関係づくりの方法）
7　良好な関係づくりの理論
8　アイスブレーキングトレーニング （良好な関係づくりの方法）
9　自主的，主体的に楽しむ力を高める理論
10　自主的，主体的に楽しむ力を高める展開方法
11　ニュースポーツ指導 Ⅰ （ソフトバレーボール）
12　ニュースポーツ指導 Ⅱ （ソフトバレーボール）
13　ニュースポーツ指導 Ⅲ （ニチレクボール）
14　ニュースポーツ指導 Ⅳ （ラダーゲッター）
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験70%，授業への参加態度20%，実技試験10%の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
生活支援技術J（終末期）	演習	15回	30時間	2年通年	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関や高齢者施設での勤務経験を持ち，介護現場における終末期に関する具体的支援について演習を行う。				
谷口　立子					

[授業の目的・ねらい]

人生の最終段階の介護について，介護福祉士の役割を果たせる力をつけるために，自分自身の死生観を深め，知識，技術を鍛え，個々の利用者に応じた状況アセスメント，介護計画，実践へと応用できる力を身につける。

[授業全体の内容の概要]

意思決定のあり方(アドバンス・ケア・プランニング)，尊厳の保持，事前意思確認，トータルペイン，苦痛の除去，在宅ターミナルケア，エンゼルケア，グリーフケア，チームアプローチ，応急手当，緊急時の対応

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

①人生の最終段階における尊厳の保持とは何かを学び，自分自身の死生観を深めることができる。②人生の最終段階の心身状況を理解，QOLを高める身体・生活援助と共感，呼応する対話で精神的サポートができる。③多職種の連携，臨終時の生活支援技術，グリーフケア等介護福祉士の役割を理解することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　応急手当について
2　応急手当の実際
3　緊急時の対応の実際（グループワーク）
4　「死」を理解する
5　人生の最終段階における意思決定のあり方（アドバンス・ケア・プランニング）
6　自分の死について考える，「エンディングノート」作成
7　人生の最終段階におけるアセスメントの視点
8　人生の最終段階における介護
9　全人的苦痛，死の受容過程について
10　死をむかえる人の介護（苦痛の除去，家族支援）
11　死をむかえた人の介護（エンゼルケア）
12　エンゼルケア（死後のケア）の実際
13　亡くなったあとの介護・グリーフケア
14　人生の最終段階の介護における多職種との連携
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護過程ＡＩ（基礎理論）	講義	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師としての勤務経験を持ち，介護過程の基礎について講義する。				
上水樽　敏子					

[授業の目的・ねらい]

他の科目で学習した知識や技術を統合して，介護過程を展開し，介護計画を立案し，適切な介護サービスの提供ができる能力を学習とする。

本人の望む生活の実現に向けて，根拠に基づく介護実践について理解する。

[授業全体の内容の概要]

介護過程の展開

介護過程の実践的展開

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護実践の根拠となる介護過程の展開の基礎を理解することができる。

介護を必要とする人の潜在能力を引き出し，活用・発揮する事の意義について理解できる。

利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう，利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し，自立支援に資するサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　介護過程のプロセス

2　介護過程の意義と目的　ビデオ視聴「人生のお願い聞きます」

3　基本視点　ICFの考えを取り入れた介護過程

4　介護過程の理解　(1)アセスメント　①情報収集

5　介護過程の理解　(1)アセスメント　②情報収集　本人の希望，している活動，出来る活動）

6　介護過程の理解　(1)アセスメント　③情報収集の留意点

7　介護過程の理解　(1)アセスメント　④課題（真のニーズ）の明確化

8　アセスメントまでの事例演習①（情報収集）

9　アセスメントまでの事例演習②（情報分析・課題の明確化）

10　介護過程の理解　(2)介護計画の立案　①目標の設定

11　介護過程の理解　(2)介護計画の立案　②具体的の表現について

12　介護過程の理解　(2)介護計画の立案　③事例を用いた演習

13　介護過程の理解　(3)介護計画の実施

14　介護過程の理解　(4)介護過程の評価

15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「9 介護過程」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，課題・レポート・授業への取り組み10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護過程AⅡ（基礎演習）	演習	30回	60時間	2年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士（坂口，長友・室屋），看護師（上水樽・谷口）としての勤務経験を持ち，介護現場における介護過程の実践的展開について演習を行う。				
坂口　留美子・専任教員					

[授業の目的・ねらい]

他の科目で学習した知識や技術を統合して，介護過程を展開し，介護計画を立案し，適切な介護サービスの提供ができる能力を学習とする。

[授業全体の内容の概要]

介護過程の展開及び実践的展開，介護過程とチームアプローチ，記録

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護実践の根拠を理解することができる。

介護を必要とする人の潜在能力を引き出し，活用・発揮する事の意義について理解できる。

利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう，利用者一人ひとりの生活している状態を的確に把握し，自立支援に資するサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につけることができる。

利用者本位のサービスを提供するため，多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解することができる。

的確な記録・記述の方法を身につける。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります。）

1	介護過程AⅡの進め方・高齢者分野に関する介護計画立案演習①（事例の解釈：グループワーク）	担当：学 科 長
2	高齢者分野に関する介護計画立案演習②（アセスメントシート①：グループワーク）	担当：1年副担任
3	高齢者分野に関する介護計画立案演習③（している活動～本人の希望：グループワーク）	担当：1年副担任
4	高齢者分野に関する介護計画立案演習④（できる活動～阻害要因：グループワーク）	担当：1年副担任
5	高齢者分野に関する介護計画立案演習⑤（生活全般の解決すべき課題：グループワーク）	担当：1年副担任
6	高齢者分野に関する介護計画立案演習⑥（長期目標・短期目標：グループワーク）	担当：1年副担任
7	高齢者分野に関する介護計画立案演習⑦（サービス内容・優先順位：グループワーク）	担当：1年副担任
8	高齢者分野に関する介護計画立案演習⑧（介護計画立案①：グループワーク）	担当：1年副担任
9	高齢者分野に関する介護計画立案演習⑨（介護計画立案②：グループワーク）	担当：1年副担任
10	障害者分野に関する介護計画立案演習①（事例の解釈～アセスメントシート①：個人ワーク）	担当：2年副担任
11	障害者分野に関する介護計画立案演習②（している活動～本人の希望：個人ワーク）	担当：2年副担任
12	障害者分野に関する介護計画立案演習③（できる活動～阻害要因：個人ワーク）	担当：2年副担任
13	障害者分野に関する介護計画立案演習④（生活全般の解決すべき課題～目標：個人ワーク）	担当：2年副担任
14	障害者分野に関する介護計画立案演習⑤（サービス内容・優先順位：個人ワーク）	担当：2年副担任
15	障害者分野に関する介護計画立案演習⑥（介護計画立案：個人ワーク）	担当：2年副担任

16	障害者分野に関する介護計画立案演習⑦(介護計画立案:個人ワーク)	担当:2年副担任
17	第3段階(施設)実習介護計画立案振り返り①(各実習先ごとの振り返り)	担当:2年担任
18	第3段階(施設)実習介護計画立案振り返り②(同じ施設種別ごとの振り返り)	担当:2年担任
19	第3段階(施設)実習介護計画立案振り返り③(他施設種別ごとの振り返り)	担当:2年担任
20	介護計画の実施	担当:学科長
21	介護計画のモニタリング・評価・再アセスメント	担当:学科長
22	介護過程とケアマネジメントの関係性	担当:坂口留美子
23	チームアプローチにおける介護福祉士の役割	担当:坂口留美子
24	サービス担当者会議	担当:坂口留美子
25	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開①	担当:坂口留美子
26	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開②	担当:坂口留美子
27	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開③	担当:坂口留美子
28	ケアプランに基づいた支援の実施，モニタリング・評価	担当:坂口留美子
29	事例検討・多職種との連携	担当:坂口留美子
30	まとめ・終講試験	担当:1年副担任

[教科書]	**[評価方法(科目認定の方法及び基準)]**
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「9 介護過程」第2版』中央法規出版，2022年	本科目において，専任教員と坂口がそれぞれ担当する授業の出席時間数が3分の2に満たない者は評価を受ける資格を失う。 終講試験50%，課題・レポート40%，授業への参加態度10%の結果で評価する。 なお，本科目の評価は，専任教員70点，坂口30点の合計100点満点を最終評価とする。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護過程B	演習	15回	30時間	2年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士(長友・室屋), 看護師(上水樽・谷口)としての勤務経験を持ち, 介護過程の展開における具体的な生活支援を演習する。				
専任教員					

[授業の目的・ねらい]

介護過程の実践的な展開ができる。

[授業全体の内容の概要]

事例をもとに介護過程を展開する中で, 基本的な知識・技術の実践的な展開を行う。

[到達目標(授業修了時の達成課題)]

利用者の個別性に応じた介護過程を実践できる。

介護過程に必要な生活支援が実践できる。

[授業計画(授業の各回のテーマ・内容・授業方法)]

(本科目は, 原則, 対面授業で行います)

1 介護過程を実践する中で必要な知識・技術の理解
2 総復習1(清潔に支援が必要な利用者の事例)
3 総復習2(移動に支援が必要な利用者の事例)
4 総復習3(移動と排泄に支援が必要な利用者の事例)
5 総復習4(排泄に支援が必要な利用者の事例)
6 総復習5(更衣に支援が必要な利用者の事例)
7 総復習6(整容に支援が必要な利用者の事例)
8 総復習7(食事に支援が必要な利用者の事例)
9 総復習8(生活意欲が低下している利用者の事例)
10 総復習9(体調不良で支援が必要な利用者の事例)
11 評価1(清潔に関する支援が必要な事例の実践的展開の評価)
12 評価2(移動に関する支援が必要な事例の実践的展開の評価)
13 評価3(整容に関する支援が必要な事例の実践的展開の評価)
14 評価4(食事に関する支援が必要な事例の実践的展開の評価)
15 評価5(排泄に関する支援が必要な事例の実践的展開の評価)

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「9 介護過程」第2版』中央法規出版, 2022年

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版, 2022年

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「7 生活支援技術Ⅱ」第2版』中央法規出版, 2022年

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「8 生活支援技術Ⅲ」第2版』中央法規出版, 2022年

[評価方法(科目認定の方法及び基準)]

評価90%、授業への参加状況10%の結果で評価する。

科　目　名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護過程C	演習	15回	30時間	2年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士（長友・室屋），看護師（上水樽・谷口）としての勤務経験を持ち，実習における介護過程の実践的展開を整理するために卒業事例研究のまとめ方について演習を行う。				
専任教員					

［　授業の目的・ねらい　］

介護過程及び，介護実習を履修したうえで，介護過程の意義や意味を自ら理解し，実践できる能力を養う。

［　授業全体の内容の概要　］

最終段階実習（第4段階実習）で担当した利用者について，ケアマネジメントの過程を分析し，理解するために，卒業事例研究としてまとめ，プレゼンテーションを行う。

［　到達目標（授業修了時の達成課題）　］

介護現場における介護過程のエビデンスを理解することができる。
介護過程の意義や目的を理解することができる。
プレゼンテーションの技術を身につけることができる。

［　授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）　］

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　卒業事例研究のまとめ方①（執筆要綱の確認）
2　卒業事例研究のまとめ方②（作図の方法・提出方法の確認）
3　卒業事例研究の作成①（はじめに）
4　卒業事例研究の作成②（施設の概要）
5　卒業事例研究の作成③（受け持ち利用者紹介）
6　卒業事例研究の作成④（利用者の現在の状況）
7　卒業事例研究の作成⑤（アセスメント～評価）
8　卒業事例研究の作成⑥（考察）
9　卒業事例研究の作成⑦（まとめ）
10　卒業事例研究の作成⑧（謝辞）
11　卒業事例研究の作成⑨（引用・参考文献）
12　卒業事例研究の作成⑩（最終確認・メディア提出）
13　卒業事例研究の発表準備①（パワーポイント作成）
14　卒業事例研究の発表準備②（パワーポイント作成）
15　最終提出及び評価

［　教科書　］

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「9 介護過程」第2版』中央法規出版，2022年

［　評価方法（科目認定の方法及び基準）　］

卒業事例研究の内容及び提出状況100％で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護総合演習A	演習	30回	60時間	1年通年	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士（長友・室屋），看護師（上水樽・谷口）としての勤務経験を持ち，介護実習における準備や心構え等について演習する。				
専任教員					

[授業の目的・ねらい]

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う。

（第1段階実習）

①居宅・通所・入所などの介護施設の概要と利用者の生活像と介護福祉士の役割を理解させる。

②基本的なコミュニケーション方法やマナー，記録の取り方を習得する。

③実習のイメージを膨らませ，自身の目標や学習課題を言語化・明確化する。

（第2段階実習）

④2段階の実習施設の概要と利用者の生活ニーズを整理・理解でき，介護福祉士に求められる倫理性と専門性を明確化する。

⑤2段階実習の振り返りや他者とのディスカッション，プロセスレコードを通して，自己を客観的に振り返り，次段階実習に向けた課題を明確化する。

⑥次の段階実習に向け，個別ケアや多様なサービス形態のあり方を理解する。

[授業全体の内容の概要]

実習に必要な知識や技術の確認・オリエンテーション，事例報告会

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力を身につけることができる。

実習の教育効果を上げるため，事前に実習施設についての理解を深めるとともに，各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。

・実習を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化させるとともに，自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うことができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

＜2年生の第3段階実習反省会＞

1　授業の進め方，介護実習の目標，目的，年間計画説明・実習施設の基本的な理解

2　2年生の第3段階実習反省会参加

3　2年生の第3段階実習反省会参加

＜第1段階実習前＞

4　第1段階実習の目標，目的，実習配置と実習施設の概要把握

5　実習に関する諸注意（心得，姿勢，態度，マナー，感染予防等）

6　関係書類の準備，記録方法の指導，提出及び回収方法確認
　個人情報保護法と記録物の取り扱いについて

7　個人実習目標の設定，実習挨拶について

8　実習グループ毎の事前打ち合わせ，実習確認テスト・巡回担当教員との事前打ち合わせ

＜第1段階実習後＞

9　第1段階実習反省会打ち合わせ・施設へのお礼状作成

10　第1段階実習振り返り（クラス全員）

11　第1段階実習振り返り（クラス全員）

12　第1段階実習反省会

13　第1段階実習反省会

14　第1段階実習の実習記録，実習評価に基づく個別指導

＜第2段階実習前＞

15　第2段階実習の実習の目標，目的，実習配置と実習施設の概要把握
　　実習に関する諸注意（心得，姿勢，態度，マナー，感染予防等）

16　関係書類の準備，記録方法の指導，提出及び回収方法確認
　　個人情報保護法と記録物の取り扱いについて

17　個人実習目標の設定，実習挨拶について

18　アセスメントシート記入について

19　レクリエーションの企画実施，指導案作成（第3段階実習にむけて）

20　レクリエーションの実践的展開（第3段階実習にむけて）

21　実習確認テスト

22　実習グループ毎の事前打ち合わせ，巡回担当教員との事前打ち合わせ

＜ケース研究発表会＞

23　2年生のケース研究発表会参加

24　2年生のケース研究発表会参加

＜第2段階実習後＞

25　第2段階実習反省会打ち合わせ・施設へのお礼状作成

26　第2段階実習振り返り（クラス全員）

27　第2段階実習振り返り（クラス全員）

28　第2段階実習反省会

29　第2段階実習反省会

30　第2段階実習の実習記録，実習評価に基づく個別指導

[教科書]	**[評価方法（科目認定の方法及び基準）]**
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「10 介護総合演習・介護実習」第2版』中央法規出版，2022年	確認試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護総合演習B	演習	30回	60時間	2年通年	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士（長友・室屋），看護師（上水樽・谷口）としての勤務経験を持ち，介護実習における準備や心構え等について演習する。				
専任教員					

[授業の目的・ねらい]

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う。

また，介護事例研究を通して，介護実践の科学的探究を行う。

（第3段階実習）

①様々な利用者の生活を理解し，個別ケアとチームケアのあり方を理解する。

②生活支援技術の習得度に沿って，自己の課題を明確化する。

③個別ケアにおける介護過程の重要性と介護計画の立案に関する基本的な技術を習得する

④3段階実習の振り返りを通して，自己を客観的に振り返り，介護福祉士として次段階実習に向けた自身の課題を明確化する。

（第4段階実習）

⑤4段階実習で行った介護過程の実践と評価を通じて，介護福祉士に求められる知識・技術を包括的に整理・理解する。

⑥事例研究や発表等を通じて介護サービス提供における倫理的思考や説明責任の技能を習得する。

[授業全体の内容の概要]

実習に必要な知識や技術の確認，オリエンテーション，事例報告会

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護を必要とする幅広い利用者に対する基本的な介護を提供できる能力を身につけることができる。

質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

＜第3段階実習前＞

1　第3段階実習の目標，目的，実習配置と実習施設の概要把握

2　関係書類の準備，記録方法の指導，提出及び回収方法確認

個人情報保護法と記録物の取り扱いについて

実習に関する諸注意（心得，姿勢，態度，マナー，感染予防等）

3　個人実習目標の設定，実習挨拶について

4　介護計画作成について

5　介護計画作成の取り組み方（日程等）

6　訪問介護実習について

7　訪問介護実習について

8　実習グループ毎の事前打ち合わせ，実習確認テスト・巡回担当教員との事前打ち合わせ

＜第3段階実習後＞

9　第3段階実習反省会打ち合わせ・施設へのお礼状作成

10　第3段階実習振り返り（クラス全員）

11　第3段階実習振り返り（クラス全員）

12　第3段階実習反省会

13　第3段階実習反省会

14　介護計画振り返り

15　訪問介護実習振り返り

16　第3段階実習の実習記録，実習評価に基づく個別指導

＜第4段階実習前＞

17　第4段階実習の目標，目的，実習配置と実習施設の概要把握

18　関係書類の準備，記録方法の指導，提出及び回収方法確認

個人情報保護法と記録物の取り扱いについて

実習に関する諸注意（心得，姿勢，態度，マナー，感染予防等）

19　個人実習目標の設定，実習挨拶について

20　卒業事例研究のテーマ設定について

21　介護計画作成について

22　夜勤実習について

23　服薬の介助について

24　実習グループ毎の事前打ち合わせ，実習確認テスト・巡回担当教員との事前打ち合わせ

＜第4段階実習後＞

25　第4段階実習反省会打ち合わせ・施設へのお礼状作成

26　第4段階実習振り返り（クラス全員）

27　第4段階実習振り返り（クラス全員）

28　第4段階実習の実習記録，実習評価に基づく個別指導

＜1年生の第1段階実習反省会＞

29　1年生の第1段階実習反省会参加

30　1年生の第1段階実習反省会参加

[教科書]	**[評価方法（科目認定の方法及び基準）]**
介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「10 介護総合演習・介護実習」第2版』中央法規出版，2022年	確認試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

こころとからだのしくみ

＜領域「こころとからだのしくみ」の目的＞

１.介護実践に必要な根拠となる，心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し，対象者の生活を支援するという観点から，身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。

２.認知症や障害のある人の生活を支えるという観点から，医療職と連携し支援を行うための，心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。

３.認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し，本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理・社会的な支援について基礎的な知識を身につける。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
発達と老化の理解A	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	医師として大学病院での勤務経験を持ち，発達の観点から老化について講義する。				
髙松 英夫					

[授業の目的・ねらい]

老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や，高齢者に多く見られる疾病と生活への影響，健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する。
介護福祉士として必須の知識及び実践的な知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

高齢者の疾病と生活上の留意点

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得することができる。
介護実践の根拠を理解することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 老化に伴うからだの変化 生理機能の全体的変化，骨格系・筋系，脳・神経系，皮膚・感覚器系
2 老化に伴うからだの変化 血液・循環器系，呼吸器系，消化器系
3 老化に伴うからだの変化 腎・泌尿器系，生殖器系，内分泌・代謝系，免疫系，まとめ
4 高齢者と健康 健康寿命に向けての健康
5 高齢者の症状・疾患の特徴
6 高齢者に多い疾患・症状と留意点 骨格系・筋系
7 高齢者に多い疾患・症状と留意点 脳・神経系
8 高齢者に多い疾患・症状と留意点 皮膚・感覚器系
9 高齢者に多い疾患・症状と留意点 循環器系，呼吸器系
10 高齢者に多い疾患・症状と留意点 消化器系，腎・泌尿器系
11 高齢者に多い疾患・症状と留意点 内分泌・代謝系，歯・口腔疾患
12 高齢者に多い疾患・症状と留意点 悪性新生物（がん），感染症
13 高齢者に多い疾患・症状と留意点 精神疾患・その他
14 保健医療職との連携
15 まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「12 発達と老化の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，小テスト10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
発達と老化の理解B	講義	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容 今林 俊一	臨床発達心理士の資格を持ち，介護サービスを提供する際に必要な心理的側面について講義する。				

[授業の目的・ねらい]

人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ，ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する。

[授業全体の内容の概要]

介護サービスを提供する際に必要な基本的知識（人間の成長発達や老化に伴う心理的・社会的変化）を理解する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

よりよい介護支援を実践する上で大切な能力や態度を身につけるために，人の成長発達する過程を理解すること・老化に伴う変化の特徴とその対処などについて，必要な知識を習得することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1 人間の成長と発達（1）（発達とは，発達の原則・法則）
2 人間の成長と発達（2）（成長・発達に影響する要因）
3 人間の発達段階と発達課題（1）（発達理論，発達段階と発達課題）
4 人間の発達段階と発達課題（2）（身体的機能の成長と発達）
5 人間の発達段階と発達課題（3）（心理的機能の発達）
6 人間の発達段階と発達課題（4）（社会的機能の発達）
7 老年期の特徴と発達課題（1）（老年期の定義，老化とは）
8 老年期の特徴と発達課題（2）（老年期の発達課題Ⅰ）
9 老年期の特徴と発達課題（3）（老年期の発達課題Ⅱ）
10 老年期の特徴と発達課題（4）（老年期をめぐる今日的課題）
11 老化に伴う心理的な変化（1）（認知機能の変化，知的機能の変化）
12 老化に伴う心理的な変化（2）（パーソナリティの変化，動機づけ・適応）
13 老化に伴う社会的な変化（1）（社会の中での生活上の課題）
14 老化に伴う社会的な変化（2）（高齢者の社会的活動の現状と課題，老化理論）
15 まとめ（高齢者介護における心理的理解）・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「12 発達と老化の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，課題・レポート10％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
認知症の理解A	講義	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	医師(認知症専門医)として医療機関での勤務経験を持ち，認知症に関する疾病各論等について講義する。				
青柳 信寿					

[授業の目的・ねらい]

認知症のケアの歴史や理念を含む，認知症を取りまく社会的環境について理解する。
医学的・心理的側面から，認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し，生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。

[授業全体の内容の概要]

認知症の歴史，現状に始まり，福祉，理念を紹介する。次に症状とその鑑別法を理解する。さらに疾病各論に入り，検査，治療法，予防法までふれる。

[到達目標(授業修了時の達成課題)]

認知症の歴史，現状，福祉，理念，症状，鑑別法，疾病各論，検査，治療法，予防法を理解し，説明することができる。

[授業計画(授業の各回のテーマ・内容・授業方法)]

(本科目は，一部，遠隔授業(オンライン授業)で行う場合があります)

1 認知症総論，認知症ケアの理念
2 認知症と紛らわしい病態・アルツハイマー型認知症
3 その他の認知症
4 認知症の診断・薬物療法・非薬物療法
5 認知症ケアの制度の変遷
6 若年性認知症
7 認知症の予防
8 介護保険サービス
9 認知症の人の心理的・行動的側面の理解
10 認知症の人の過ごしやすい住環境
11 認知症の人に対する生活支援，家族・介護者への支援
12 認知症の人の生活障害
13 脳の発達と機能と老化
14 復習
15 まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「13 認知症の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法(科目認定の方法及び基準)]

終講試験60%，小テスト40%の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
認知症の理解B	講義	15回	30時間	2年通年	必修
授業担当者及び実務経験の内容	介護福祉士及び認知症ケア専門士として勤務経験を持ち，認知症のある人に対する介護の視点について講義する。				
長友　ひろみ					

[授業の目的・ねらい]

認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し，その人の特性を踏まえたアセスメントを行い，本人主体の理念に基づいた認知症ケアの基礎的な知識を理解する。
認知症の人を支える家族の課題について理解し，家族の受容段階や介護力に応じた支援について理解する。
認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や，多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。

[授業全体の内容の概要]

認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活についての理解。
地域との連携，家族のレスパイトケアについて。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識と技術を習得することができる。
介護実践の根拠を理解することができる。
介護を必要とする人の潜在能力を引き出し，活用・発揮できるようにすることの意義について理解できる。
人権擁護の視点，職業倫理を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　老化と認知症・日常生活自立度
2　認知症の主な原因疾患とさまざまな症状
3　中核症状・BPSD
4　認知症ケアの理解・意思決定支援とは
5　パーソン・センタード・ケア
6　認知症の特性を踏まえたアセスメント・ツール
7　認知症の人とのコミュニケーション
8　認知症の人の生活への影響とケアの実際①
9　認知症の人の生活への影響とケアの実際②
10　認知症の人の家族の心理過程と葛藤
11　家族の介護力の評価・レスパイトケア
12　介護福祉職への支援
13　認知症の人の地域生活支援　①制度・サービス・機関・地域づくり
14　認知症の人の地域生活支援　②多職種連携と協働
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「13 認知症の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
障害の理解A	講義	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会福祉士として障害者施設での勤務及び経営の経験を持ち，障害のある方の基礎的理解等について講義する。				
水流　源彦					

[授業の目的・ねらい]

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに，障害のある人の体験を理解し，本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。

[授業全体の内容の概要]

障害の基礎的理解，障害のある人の生活の理解，
障害のある人に対する介護，家族への支援，連携と協働

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

介護を必要とする人の潜在能力を引き出し，活用・発揮されることの意義について理解できる。

利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう，利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し，自立支援に資するサービスを総合的，計画的に提供できる能力を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　障害の概念と障害者福祉の基本理念①（バリアフリー映画との出会い：NHK番組DVD）

2　障害の概念と障害者福祉の基本理念②　障害のある人の生活の理解ならびに障害に応じた介護①（ICFとは）

3　障害別の基礎的理解と特性に応じた支援①知的障害（しがらきから吹いてくる風；視聴）

4　障害別の基礎的理解と特性に応じた支援②知的障害（仝上；視聴）レポート・ミニディスカッション

5　障害別の基礎的理解と特性に応じた支援③発達障害

6　障害別の基礎的理解と特性に応じた支援④精神障害

7　障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑤重症心身障害

8　家族への支援①　視点　「障害の受容」と家族　社会環境　実践的な取組み　これからの家族支援

9　家族への支援②　家族の状態の把握と介護負担の軽減①（酔いがさめたらうちに帰ろう；視聴）

10　家族への支援③　家族の状態の把握と介護負担の軽減②（発達障害の当事者と家族）

11　連携と協働①チームアプローチ　他の福祉職種との連携　鹿児島における連携状況

12　連携と協働②地域におけるサポート体制　行政，関係機関との連携　地域自立支援協議会との連携

13　連携と協働③地域におけるサポート体制　地域自立支援協議会との連携　鹿児島にある社会資源について

14　連携と協働④地域におけるサポート体制　地域自立支援協議会との連携　インフォーマル支援ネットワーク

15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「14 障害の理解」第2版』中央法規出版，2022年

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「8 生活支援技術Ⅲ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験70％，課題・レポート20％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
障害の理解B	講義	15回	30時間	2年通年	必修
授業担当者及び実務経験の内容	社会福祉士として障害者支援施設での勤務経験を持ち，障害を持つ人の医学的側面の基礎的知識等について講義する。				
石場 俊秋，松下 正裕					

[授業の目的・ねらい]

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに，障害のある人の体験を理解し，本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

[授業全体の内容の概要]

障害の基礎的理解
障害の医学的側面の基礎的知識 生活の理解と個別支援

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

医学的側面からの基礎的知識として，身体的障害について学び，その症状や合併症などが日常生活に及ぼす影響を理解した上で，障害のある人やその介護者を含めた生活支援を行うための根拠となる知識を習得することができる。その上で介護を必要とする人の潜在能力を引き出し，活用・発揮できるようにすることの意義について理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 障害のある人の心理	担当:松下
2	肢体不自由① 運動機能障害の原因と症状	担当:松下
3	肢体不自由② 障害の原因となる主な疾患の理解	担当:松下
4	視覚障害・聴覚・言語障害・重複障害① 原因と症状・障害の特性に応じた支援	担当:松下
5	視覚障害・聴覚・言語障害・重複障害② 原因と症状・障害の特性に応じた支援	担当:松下
6	内部障害① 心臓機能障害の原因と症状・治療・障害特性に応じた支援	担当:松下
7	内部障害② 呼吸器機能障害の原因と症状・治療・障害特性に応じた支援	担当:松下
8	内部障害③ 腎機能障害の原因と症状・治療・障害特性に応じた支援	担当:石場
9	内部障害④ 膀胱・直腸障害・小腸機能障害の原因と症状・治療・障害特性に応じた支援	担当:石場
10	内部障害⑤ ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害・肝機能障害の原因と症状・治療・障害特性に応じた支援	担当:石場
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 高次脳機能障害① 原因と症状	担当:石場
12	高次脳機能障害② 特性の理解と特性に応じた相談支援	担当:石場
13	難病① 定義・疾患と症状	担当:石場
14	難病② 特性の理解と特性に応じた支援	担当:石場
15	まとめ・終講試験	担当:石場

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「14 障害の理解」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90%，授業への参加態度10%の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
こころとからだのしくみA	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師，社会福祉士及び介護支援専門員として医療機関及び高齢者施設での勤務経験を持ち，からだのしくみの基礎的知識について講義する。				
早水　由美子					

[授業の目的・ねらい]

介護実践に必要な観察力，判断力の基盤となる人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する。

[授業全体の内容の概要]

からだのしくみを理解する
からだのしくみ － こころとからだの関係・脳や心臓などの基本的な解剖や生理を理解する。
からだの動き － 骨や関節の役割・筋肉の役割・平衡能，敏捷性について理解する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

こころとからだの両面から利用者の状態を見て，その状態がどのような要因から引き起こされているか，その根拠となる知識を学び，そこから残存能力，潜在能力を引き出し，利用者の尊厳の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　からだの部位の役割 （細胞・遺伝・身体各部の名称）
2　からだの部位の役割 （脳・神経の構造と機能）
3　からだの部位の役割 （感覚器―視覚器の構造と機能），小テスト
4　からだの部位の役割 （感覚器―平衡聴覚器の構造と機能）
5　からだの部位の役割 （感覚器―嗅覚器・味覚器・皮膚感覚の構造と機能）
6　からだの部位の役割 （内臓の名称・呼吸器の構造と機能）
7　中間試験
8　からだの部位の役割 （循環器の構造と機能），中間試験
9　からだの部位の役割 （消化器の構造と機能）
10　からだの部位の役割 （泌尿器の構造と機能），小テスト
11　からだの部位の役割 （骨・筋肉の構造と機能・からだの動き）
12　からだの部位の役割 （生殖器の構造と機能・内分泌系の機能）
13　からだの部位の役割 （血液・リンパの機能）
14　からだの部位の役割 （心身の調和・生命の維持と恒常性のしくみ）
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「11 こころとからだのしくみ」第2版』中央法規出版 2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
こころとからだのしくみB	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師，社会福祉士及び介護支援専門員として医療機関及び高齢者施設での勤務経験を持ち，各生活支援技術に関連した人体の構造等について講義する。				
早水　由美子					

[授業の目的・ねらい]

生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として，生活支援の場面に応じた，こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。

[授業全体の内容の概要]

身じたくに関連したこころとからだのしくみ
移動に関連したこころとからだのしくみ
入浴，清潔保持に関連したこころとからだのしくみ

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

こころとからだの両面から利用者の状態を見て，その状態がどのような要因から引き起こされているか，その根拠となる知識を学び，そこから残存能力，潜在能力を引き出し，利用者の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　移動のしくみ
2　心身の機能低下が移動に及ぼす影響
3　疾患に伴う移動への影響について　①　脳血管障害後遺症
4　疾患に伴う移動への影響について　②　関節リウマチ　③悪性関節リウマチ
5　疾患に伴う移動への影響について　④　変形性関節症　⑤脊髄小脳変性症
6　疾患に伴う移動への影響について　⑥　脊髄損傷　⑦脊柱管狭窄症
7　疾患に伴う移動への影響について　⑧　パーキンソン病
8　中間試験・疾患に伴う移動への影響について　⑨　筋萎縮性側索硬化症
9　疾患に伴う移動への影響について　⑩　進行性筋ジストロフィー
10　身じたくの意義
11　爪，毛髪，口腔のしくみと老化について
12　清潔の意義と目的
13　入浴，清潔に関する身体のしくみ
14　入浴が身体に与える影響
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「11 こころとからだのしくみ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
こころとからだのしくみC	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関及び高齢者施設での勤務経験を持ち，各生活支援技術に関連した人体の構造等について講義する。				
谷口　立子					

[授業の目的・ねらい]

生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として，生活支援の場面に応じた，こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する。

[授業全体の内容の概要]

食事に関連したこころとからだのしくみ
排泄に関連したこころとからだのしくみ
休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

こころとからだの両面から利用者の状態を見て，その状態がどのような要因から引き起こされているか，その根拠となる知識を学び，そこから残存能力，潜在能力を引き出し，利用者の尊厳と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　食事のしくみ　食事の意義，栄養素について
2　食事のしくみ　食事に関連したこころのしくみ
3　食事のしくみ　食事に関連したからだのしくみ
4　食事のしくみ　食事の種類（食事形態・治療食・その他）
5　食事のしくみ　心身の機能低下が食事に及ぼす影響
6　食事のしくみ　食事での観察ポイント・医療職との連携のポイント
7　排泄のしくみ　排泄に関連したこころとからだのしくみ
8　排泄のしくみ　排尿・排便のしくみ・人工膀胱と人工肛門のしくみ
9　排泄のしくみ　心身の機能低下が排泄に及ぼす影響（排尿障害）
10　排泄のしくみ　心身の機能低下が排泄に及ぼす影響（排便障害）
11　排泄のしくみ　排泄での観察ポイント・医療職との連携のポイント
12　睡眠のしくみ　睡眠の役割・睡眠不足が及ぼす影響
13　睡眠のしくみ　心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
14　睡眠のしくみ　睡眠での観察ポイント・医療職との連携のポイント
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「11 こころとからだのしくみ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，課題・レポート10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
こころとからだのしくみD	講義	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師，社会福祉士及び介護支援専門員として医療機関及び高齢者施設での勤務経験を持ち，各生活支援技術に関連した人体の構造等について講義する。				
早水　由美子					

[授業の目的・ねらい]

介護実践に必要な観察力，判断力の基盤となる人間の心理の基礎的な知識を理解する。
人生の最終段階にある人と家族を支援するため，終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び，生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。

[授業全体の内容の概要]

健康の定義
こころのしくみ
人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

こころとからだの両面から利用者の状態を見て，その状態がどのような要因から引き起こされているか，その根拠となる知識を学び，そこから残存能力，潜在能力を引き出し，利用者の尊重と自立を支援するための適切な介護方法を導き出すことができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　序章 「健康」とは何か　健康の定義，健康観，健康寿命
2　こころのしくみ，人間の欲求，自己実現と尊厳
3　脳のしくみ，認知のしくみ
4　学習・記憶・思考のしくみ
5　意欲・動機づけのしくみ
6　適応のしくみ
7　こころのしくみ基礎まとめ
8　中間試験
9　人生の最終段階に関する「死」のとらえ方
10　終末期（ターミナル期）・ターミナルケア
11　「死」に対するこころの変化，「死」の受容プロセス
12　終末期から死までの身体的変化，臨終期の対応
13　死後のからだの変化，終末期から死後の身体的変化まとめ（演習）
14　終末期における医療職との連携
15　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「11 こころとからだのしくみ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

医 療 的 ケ ア

＜領域「医療的ケア」の目的＞

１.医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から，医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう，必要な知識・技術を習得する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
医療的ケアA（概論）	講義	12回	24時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関での勤務経験を持ち，介護福祉士が行う医療的ケアの重要性等について講義を行う。				
池田　加奈子					

[授業の目的・ねらい]

医療的ケアを行うにあたり，個人の尊厳を尊重し利用者や家族の気持ちを理解したうえで，チームの一員として安全に正確に実施することの重要性を理解する。

[授業全体の内容の概要]

①医療的ケア　②安全な療養生活
③清潔保持と感染予防　④健康状態の把握

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

①医療的ケアを必要とする利用者や家族の気持ちを理解することができる。
②医療職と介護職の連携について理解し，安全に正確に医療的ケアを実施することの重要性を理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　医療的ケア実施の基礎，医療的ケアとは，医療的ケア導入の経緯

2　チーム医療と医療の倫理

3　個人の尊厳と自立，利用者や家族の気持ちの理解

4　医療制度とその変遷，医療的ケアと喀痰吸引等の背景，研修の種類について

5　リスクマネジメント

6　救急蘇生法の実際

7　清潔保持と感染予防

8　清潔保持と感染予防の実際（手洗い，マスク，ガウン等）

9　健康状態を知る項目（バイタルサイン等）

10　バイタルサインの測定，記録

11　演習問題，まとめ

12　終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「15 医療的ケア」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，小テスト10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
医療的ケアA（概論）	講義	12回	24時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関での勤務経験を持ち，介護福祉士が行う医療的ケアの重要性等について講義を行う。				
池田　加奈子					

[授業の目的・ねらい]

医療的ケアを行うにあたり，個人の尊厳を尊重し利用者や家族の気持ちを理解したうえで，チームの一員として安全に正確に実施することの重要性を理解する。

[授業全体の内容の概要]

①医療的ケア　②安全な療養生活
③清潔保持と感染予防　④健康状態の把握

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

①医療的ケアを必要とする利用者や家族の気持ちを理解することができる。
②医療職と介護職の連携について理解し，安全に正確に医療的ケアを実施することの重要性を理解できる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　医療的ケア実施の基礎，医療的ケアとは，医療的ケア導入の経緯

2　チーム医療と医療の倫理

3　個人の尊厳と自立，利用者や家族の気持ちの理解

4　医療制度とその変遷，医療的ケアと喀痰吸引等の背景，研修の種類について

5　リスクマネジメント

6　救急蘇生法の実際

7　清潔保持と感染予防

8　清潔保持と感染予防の実際（手洗い，マスク，ガウン等）

9　健康状態を知る項目（バイタルサイン等）

10　バイタルサインの測定，記録

11　演習問題，まとめ

12　終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「15 医療的ケア」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，小テスト10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
医療的ケアＢＩ（吸引理論）	講義	14回	28時間	2年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関での勤務経験を持ち，介護福祉士が行う医療的ケア（喀痰吸引）に関連する知識，手技の理解について講義を行う。				
上水樽　敏子					

［ 授業の目的・ねらい ］

高齢者及び障害児・者の喀痰吸引を実施するにあたり，呼吸の仕組み，起こりうる急変や事故について理解したうえで安全に実施できる知識を習得できる。

［ 授業全体の内容の概要 ］

①呼吸の仕組みと働き　②いつもと違う呼吸状態　③喀痰吸引とは
④喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ，清潔の保持　⑤人工呼吸器と吸引
⑥緊急事故時の対応　⑦子供の吸引　⑧喀痰吸引の実際
⑨呼吸器系の感染と予防　⑩喀痰吸引に伴うケア

［ 到達目標（授業修了時の達成課題） ］

①呼吸の仕組みを理解し喀痰吸引の必要性を理解するとともに，予測される急変や事故について理解することができる。
②高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施方法を正確に理解することができる。

［ 授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法） ］

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　呼吸の仕組みと働き　主な呼吸器官の仕組みと働き
2　呼吸の仕組みと働き　換気とガス交換
3　いつもと違う呼吸状態，　痰を排出する仕組み
4　喀痰吸引の必要な状態，喀痰吸引で用いる機材とその仕組み，清潔の保持
5　喀痰吸引で用いる機材の準備，　清潔の保持の実際
6　人工呼吸器が必要な状態，人工呼吸器のしくみ，非侵襲的人工呼吸療法の場合の喀痰吸引
7　侵襲的人工呼吸療法の場合の気管カニューレ内部からの喀痰吸引
8　緊急事故時の対応，こどもの吸引，利用者の家族の気持ちと対応
9　喀痰吸引の実施手順と留意点
10　喀痰吸引実施前，実施中，実施後の状態観察と留意点
11　呼吸器系の感染と予防
12　喀痰吸引に伴うケア
13　報告及び記録　演習問題
14　終講試験

［ 教科書 ］

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「15 医療的ケア」第2版』中央法規出版，2022年

［ 評価方法（科目認定の方法及び基準） ］

終講試験90％，小テスト10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
医療的ケアBⅡ（吸引演習）	演習	15回	30時間	2年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関での勤務経験を持ち，介護福祉士が行う医療的ケア（喀痰吸引）を理解するために演習を行う。				
上水樽　敏子					

[授業の目的・ねらい]

1 吸引の器具，器材のしくみ，管理方法を学び，安全で確実な吸引ができる。
2 吸引前後の観察ポイントを知り看護師と連携して安全に吸引できる。

[授業全体の内容の概要]

① 「喀痰吸引の必要な状態」についての理解　② 喀痰吸引の実際

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

①利用者の口腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部及び全身の状態を観察し，吸引の必要性を理解できる。
②利用者の口腔内及び全身の状態を観察し，吸引の必要性を確認することができる。
③吸引に関する医師等の指示の確認を行い，必要物品を準備することができる。物品の後片付けができる。
④吸引について利用者に説明し，適切かつ安全に実施することができる。
⑤吸引実施後の利用者の状態を観察し看護職員に報告し，記録することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　吸引の必要な状態の理解　(1)口腔内吸引(2)鼻腔内吸引(3)気管カニューレ内部吸引
2　吸引の必要物品の準備，後片付け
3　吸引実施後の利用者の状態の観察，看護職員への報告，記録
4　吸引についての説明と安全な実施　口腔内・鼻腔内
5　吸引についての説明と安全な実施　口腔内・鼻腔内
6　吸引についての説明と安全な実施　口腔内・鼻腔内
7　吸引についての説明と安全な実施　口腔内・鼻腔内
8　実技試験　（口腔内・鼻腔内）
9　実技試験　（口腔内・鼻腔内）
10　吸引についての説明と安全な実施　気管カニューレ内部
11　吸引についての説明と安全な実施　気管カニューレ内部
12　吸引についての説明と安全な実施　気管カニューレ内（侵襲的人工呼吸療法・非侵襲的人工呼吸療法）
13　実技試験　（気管カニューレ内部）
14　実技試験　（気管カニューレ内部）
15　実技試験　（気管カニューレ内部）

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「15 医療的ケア」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

実技試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
医療的ケアＣＩ（経管理論）	講義	13回	26時間	2年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関及び高齢者施設での勤務経験を持ち，介護福祉士が行う医療的ケア（経管栄養）に関連する知識，手技の理解について講義を行う。				
谷口　立子					

[授業の目的・ねらい]

高齢者及び障害児・者の経管栄養を実施するにあたり，消化器系のしくみ，起こりうる急変や事故について理解したうえで安全に実施できる知識を習得できる。

[授業全体の内容の概要]

高齢者及び障害児・者の経管栄養概論
高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順解説

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

消化器系のしくみを理解し経管栄養の必要性を理解するとともに，予測される急変や事故について理解することができる。
高齢者及び障害児・者の経管栄養実施方法を正確に理解することができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　消化器系のしくみとはたらき

2　消化・吸収とよくある消化器の症状

3　経管栄養について，経管栄養で注入する栄養剤について

4　経管栄養実施上の留意点，子供の経管栄養について

5　経管栄養に関係する感染と予防について

6　経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応，説明と同意

7　経管栄養により生じる危険，注入後の安全確認

8　急変・事故発生時の対応と事前対策

9　経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ，清潔の保持

10　経管栄養の技術と留意点

11　経管栄養に必要なケア

12　医療と介護職の連携，報告および記録

13　まとめ・終講試験

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「15 医療的ケア」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験90％，授業への参加態度10％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
医療的ケアCⅡ（経管演習）	演習	15回	30時間	2年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	看護師として医療機関及び高齢者施設での勤務経験を持ち，介護福祉士が行う医療的ケア（経管栄養）を理解するために演習を行う。				
谷口　立子					

［ 授業の目的・ねらい ］

経管栄養に必要な人体の構造と，機能，起こりうる急変や事故に対する基礎知識に基づき，高齢者及び障害児・者の経管栄養を安全に実施する事ができる。

［ 授業全体の内容の概要 ］

経管栄養の実際（器具・器材の清潔保持，準備・後片付け，演習）

［ 到達目標（授業修了時の達成課題） ］

・経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ，清潔の保持が説明・実施できる。
・経管栄養の技術と留意点が説明・実施できる。
・経管栄養に必要なケアが説明・実施できる。
・報告及び記録内容が説明・実施できる。

［ 授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法） ］

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　利用者の状態確認や観察項目，連携体制，急変・事故の対応について
2　経管栄養の必要物品と清潔保持（消毒薬・消毒方法）
3　経管栄養の準備と後片づけ
4　経管栄養実施後の利用者の状況の観察，報告，記録
5　経管栄養についての説明と安全な実施（胃ろう）
6　経管栄養についての説明と安全な実施（胃ろう）
7　経管栄養についての説明と安全な実施（胃ろう）
8　実技試験（胃ろうによる経管栄養の実施）
9　実技試験（胃ろうによる経管栄養の実施）
10　経管栄養についての説明と安全な実施（経鼻経管栄養）
11　経管栄養についての説明と安全な実施（経鼻経管栄養）
12　経管栄養についての説明と安全な実施（経鼻経管栄養）
13　経管栄養についての説明と安全な実施（経鼻経管栄養）
14　実技試験（経鼻経管栄養の実施）
15　実技試験（経鼻経管栄養の実施）

［ 教科書 ］

介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新介護福祉士養成講座「15 医療的ケア」第2版』中央法規出版，2022年

［ 評価方法（科目認定の方法及び基準） ］

実技試験の結果で評価する。

特　別　科　目

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
余暇活動支援技術	演習	15回	30時間	2年前期	必修

【クラフト：5回】

授業担当者及び実務経験の内容	
佐々木 澄	工芸・色彩専科の前短期大学教授， 現在，日展会員（2022年日展審査員） 日本現代工芸美術協会評議員，日本色彩学会会員 南日本美術展委嘱作家，Art studio「眞澄」主宰

［ 授業の目的・ねらい ］

余暇活動支援技術のクラフト造形の創作指導の専門性と総合的な援助関係を理解し，造形の実践を通して色彩の物理的，心理的側面からのコミュニケーション技術と創作に指導に求められる人材の職業的指標を目的とする。

［ 授業全体の内容の概要 ］

人間の感情を左右する色彩の物理的・心理的側面に焦点を当てて，色彩構造の基礎的知識を修得するとともに創作によるコミュニケーション支援技術の表現能力を通して,共感的理解と人間関係の援助方法を習得する。

［ 到達目標（授業修了時の達成課題） ］

余暇活動支援技術の造形（クラフト）の遊びを通して，言語的・非言語的コミュニケーション支援技術の対人関係で測定される心理的感情の共感的理解と人間関係の形成を主観的指標の達成課題とする。

［ 授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法） ］

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1 クラフト① 「唇パクパク」色紙造形
　・色彩体系と色彩理論による色の知覚・色の錯視・色の感情などの不思議体験
　・創作によるコミュニケーション技術の習得
2 クラフト② ツイストバルーン制作
　・ゴム風船の三次元的に統合する立体造形の構築と色彩効果の効用
3 クラフト③ ツイストバルーン制作
　・ゴム風船の三次元的に統合する立体造形の量感や均衡などの美的秩序の効用
4 クラフト④ 紙コップで創るけん玉遊び
　・完成作品を使用する行為で利用者の心身の活性という創作指導の要点の理解を深める。
5 クラフト⑤ 金魚すくい
　・造形作品を実際に使用して遊びを楽しみ，利用者の心身の活性と共感的理解を深める。

［ 教科書 ］

講師作成テキスト

［ 準備学習（予習・復習等） ］

配布されたテキストやプリントは「予習」「復習」として，内容を充分に把握しておくこと。
事前に制作に対してのシュミレーションを「予習」「復習」として十分に確認しておくこと。

［ 余暇活動支援技術（クラフト）評価方法（科目認定の方法及び基準） ］

余暇活動支援技術（クラフト）において，授業の出席時間数が3分の2に満たない者は評価を受ける資格を失う。

授業に取り組む学習意欲と制作態度20％
次作品のアイデアと完成度60％
レポート・テキスト20％

【音楽：5回】

授業担当者及び実務経験の内容	
パーネル茂谷優子	声楽家として活動している経験を持ち，介護現場において，音楽をとおして，利用者とのコミュニケーションをとる方法について演習する。

［ 授業の目的・ねらい ］

音楽を通して，創造的な表現の能力を伸ばすと共に，実際に音楽を通して介護に活かす実践的な能力を習得する。

[授業全体の内容の概要]

対象者へのなじみのある歌曲，唱歌などの演奏実習

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

音楽を通して，コミュニケーションの取り方などの基本を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　音楽①　発声法・音楽リズム遊び

2　音楽②　音楽レクリエーション（対象者向けの童謡・歌唱・懐かしの歌謡曲①）

3　音楽③　音楽レクリエーション（対象者向けの童謡・歌唱・懐かしの歌謡曲②）

4　音楽④　音楽療法の歴史

5　音楽⑤　音楽を利用した実践・実技試験

[教科書]	**[余暇活動支援技術（音楽）評価方法（科目認定の方法及び基準）]**
講師作成プリント等	余暇活動支援技術（音楽）において，授業の出席時間数が3分の2に満たない者は評価を受ける資格を失う。 実技試験60％，課題10％，授業への参加態度30％の結果で評価する。

【アクティビティ：5回】

授業担当者及び実務経験の内容	保健体育の教員として専門学校で教員の経験を持ち，介護現場におけるアクティビティの活用法について演習する。
平川　洋介	

[授業の目的・ねらい]

アクティビティの知識，技術の向上とともに，体力向上を図る。また，集団競技やグループ学習を行うことにより，協調性やコミュニケーション能力を高める。

[授業全体の内容の概要]

各実技の競技特性やルールを学ぶ。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

アクティビティを通して積極的に参加し，協調性を身につけることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　アクティビティ①　レクリエーション活動の習得①（バドミントン：レシーブ・スマッシュ）

2　アクティビティ②　レクリエーション活動の習得②（バドミントン：試合）

3　アクティビティ③　レクリエーション活動の習得③（運動学講義）

4　アクティビティ④　レクリエーション活動の習得④（ソフトバレーボール：レシーブ・スパイク）

5　アクティビティ⑤　レクリエーション活動の習得⑤（ソフトバレーボール：試合）

[教科書]	**[余暇活動支援技術（アクティビティ）評価方法（科目認定の方法及び基準）]**
講師作成プリント等	余暇活動支援技術（アクティビティ）において，授業の出席時間数が3分の2に満たない者は評価を受ける資格を失う。 授業への参加態度80％，実技20％の結果で評価する。

※余暇活動支援技術の最終評価は，クラフト・音楽・アクティビティの各評価（100点満点）の平均点とする。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
手話入門	演習	21回	42時間	2年通年	必修
授業担当者及び実務経験の内容	手話通訳士としての勤務経験を持ち，手話の基本及び簡単な会話能力を養うために演習を行う。				
丸岡　麻由美					

[授業の目的・ねらい]

聴覚障害・聴覚障害者を理解する
手話の基本を習得させ，簡単な会話能力を養う

[授業全体の内容の概要]

聴覚障害者の生活，聴覚障害の基礎知識，手話の基礎知識

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

相手の簡単な手話が理解でき，手話であいさつ，自己紹介ができるようになる

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　伝え合ってみましょう（身ぶり，表情，指さし）
2　伝え合ってみましょう（身ぶり，表情，指さし）
3　自己紹介しましょう①（名前を紹介しましょう）
4　自己紹介しましょう②（数を使って話しましょう），聴覚障害の基礎知識（耳のしくみ）
5　自己紹介しましょう③（家族を紹介しましょう），手話の基礎知識
6　自己紹介しましょう④（趣味について話しましょう），聴覚障害者の生活
7　自己紹介しましょう⑤（仕事について話しましょう），ろう者の仕事
8　自己紹介しましょう⑥（住所を紹介しましょう）
9　自己紹介しましょう～まとめ，手話サークル
10　話してみましょう①（一日のことを話しましょう）
11　話してみましょう②（一か月のことを話しましょう）
12　話してみましょう③（一年のことを話しましょう）
13　話してみましょう④（パーティのことを話しましょう）
14　話してみましょう⑤（旅行のことを話しましょう）
15　話してみましょう⑥（病院のことを話しましょう）
16　話してみましょう⑦（学校のことを話しましょう），ろう教育
17　話してみましょう⑧（職場のことを話しましょう）
18　話してみましょう⑨（どうしたんですか）
19　話してみましょう（総合演習①），ろう教育
20　話してみましょう（総合演習②）
21　話してみましょう（総合演習③）　まとめ・終講試験　グループ発表，手話でのスピーチ

[教科書]

手話奉仕員養成テキスト編集委員会『手話を学ぼう手話を話そう』社会福祉法人全国手話研修センター，2014年

[参考書]

全日本ろうあ連盟出版局『わたしたちの手話学習辞典』全日本ろうあ連盟，2010年
全日本ろうあ連盟「わたしたちの手話」再編本委員会『わたしたちの手話学習辞典Ⅱ』全日本ろうあ連盟，2014年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
レクリエーション活動支援	演習	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	レクリエーションインストラクターの資格を持ち，レクリエーションの役割や運営方法などについて講義する。				
大村　一光					

[授業の目的・ねらい]

レクリエーションインストラクター資格取得へ向け，生活支援技術I（レクリエーション）で学んだ内容をもとに，福祉現場や地域社会の活動に対して，学生諸君が積極的に実技支援に取り組んでいけるようにすること。
また，レクリエーション活動をより多面的な視点から捉えるための資質向上を目的としている。

[授業全体の内容の概要]

生活支援技術I（レクリエーション）の内容を踏まえ，支援の方法について具体的事例を紹介した後，学生相互による企画，実技，ディスカッションなどを実施する

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

・基本的なレクリエーション活動について企画，実技の実際ができる。
・実施において特に安全面への配慮ができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　オリエンテーション，安全管理の方法
2　伝承遊びの体験
3　伝承遊びを通した支援
4　モデルプログラムを通した支援案作成のポイント
5　グループ別発表へ向けてのプログラム作成　Ⅰ（支援案素案作り）
6　グループ別発表へ向けてのプログラム作成　Ⅱ（支援案本案作り）
7　グループ別によるレク活動発表Ⅰ　（1グループ）
8　グループ別によるレク活動発表の振り返り　（1グループ）
9　グループ別によるレク活動発表Ⅱ　（2グループ）
10　グループ別によるレク活動発表の振り返り　（2グループ）
11　グループ別によるレク活動発表Ⅲ　（3グループ）
12　グループ別によるレク活動発表の振り返り　（3グループ）
13　グループ別によるレク活動発表Ⅳ　（4グループ）
14　グループ別によるレク活動発表の振り返り　（4グループ）
15　まとめ（終講試験）

[教科書]

介護福祉士養成講座編集委員会編集
『最新介護福祉士養成講座「6 生活支援技術Ⅰ」第2版』中央法規出版，2022年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

各自の発表内容60％，授業への参加態度40％などをもとに評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
パソコン演習	演習	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	基本情報技術者の資格を保有。業務システム開発，PCインストラクターとしての勤務経験を持ち，様々な資料作成の経験を基に，パソコンの基本的な操作及び効率的な資料作成について演習する。				
草宮　めぐみ					

[授業の目的・ねらい]

パソコンの基本的な知識と操作を身に付け，実習，他の授業でのパソコンの利用ができるようになることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

パソコンの基礎知識，フォルダ管理，マウス操作，文字入力などの基本操作，及びワープロソフト，表計算ソフトなどのアプリケーション操作を理解する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

パソコンの基本操作，及び，レポート作成，実習，授業等での日常でのパソコン操作などができるようになる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，原則，対面授業で行います）

1　Windowsの基本操作，フォルダ管理
2　文字入力，日本語入力システム，タイピング練習
3　Word　基本操作・ページ設定
4　Word　文章入力
5　Word　文字書式
6　Word　段落書式
7　Word　グラフィックス機能
8　Word　表作成・印刷
9　Excel　基本操作，データ入力
10　Excel　表作成，計算
11　Excel　関数，表編集
12　Excel　グラフ，印刷設定
13　PowePoint スライド作成
14　PowePoint スライドデザイン・プレゼンテーション
15　まとめ・終講試験

[教科書]

『よくわかる Microsoft Word 2024 & Microsoft Excel 2024 & Microsoft PowerPoint 2024』FOM出版，2024年

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
キャリア形成論	演習	15回	30時間	1年後期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	1級キャリアコンサルティング技能士及びメンタルヘルス・マネジメント検定Ⅱ種の資格を有し，自ら起業している経験を持ち，キャリア形成の意味と重要性について演習する。				
立元 昭子					

[授業の目的・ねらい]

キャリアとは，単に職業，職務，経歴といったものだけでなく，働くことを通して「ありたい自分」を具現化していくプロセスそのものである。この授業では「ありたい自分」を具体的に考え，具現化するために必要な基礎的な力を知り，学ぶ意義や働くこととの関連性を学ぶ。生涯を通じた継続的な就業力向上や社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を高めることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

個人ワーク，グループワークや発表を頻繁に実施し，全体を通して以下の能力向上を図る。
(1)キャリア形成と働くことについての理解　(2)社会に求められる力についての理解
(3)自己理解に基く職業選択　(4)実践的コミュニケーション力
(5)目標達成力を高める　(6)自己開示力・表現力

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

・生涯にわたるキャリア形成の意味と重要性を理解することができる。
・異なる価値観を持つ人とも受容的に関わることができる。
・様々な課題に対し，自ら考え行動を起こすことができる。
・現在の学びと働くことの関連性を理解し，学ぶ意欲を高めることができる。
・マナーとコミュニケーションを向上させることができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　ガイダンス－講義の目的と取り組み方について/社会で求められる基礎的な力について
2　相互理解のコミュニケーション－コミュニケーション力が社会で求められる理由と技法
3　自他尊重の自己表現－アサーティブコミュニケーション/伝える力を高める
4　介護職の接遇マナー1（態度で思いやりと尊重の気持ちを伝える）
5　介護職の接遇マナー2（敬語の使い方実践）
6　コミュニケーション力を生かす－チームコミュニケーションについて
7　モチベーション－モチベーションの理解/モチベーションを高める
8　論理的思考法－発散思考と収束思考/マインドマップを使ったキャリアデザイン実践
9　課題解決・目標達成手法－セルフコーチング/目標達成のために，今何をするか考える
10　自己理解の理論と実践1(過去から現在)－自己理解の意味/「私の強み」を洗い出す
11　自己理解の理論と実践2(現在から将来)－ジョブカードを書いてみよう/人生予定表を作る
12　社会とは組織とは－ワーク・ライフ・バランスについて/知っておきたい労働法の基礎知識
13　自己PR文を作る－自分に関する情報の整理/効果的に伝える文章表現
14　自己開示力を高める－効果的な発表の仕方/自己PRの発表
15　まとめ・終講試験

[教科書]

HOSPITALITY MIND
講師作成プリント

[評価方法（科目認定の方法及び基準）]

終講試験80％，授業への参加態度20％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
文章表現	講義	15回	30時間	1年前期	必修
授業担当者及び実務経験の内容	中学校での教員としての勤務経験を持ち，場面に応じた文章の書き方の基本及びコミュニケーションに役立つ表現方法について講義する。				
池田　由佳子					

[授業の目的・ねらい]

文章表現・記録の力を身につけることによって，実習で学んだことを整理し，的確に実習記録にまとめることができる。

[授業全体の内容の概要]

はじめに，文章を書く基礎を学び，続いて，具体的な介護の場での観察や気づき，自身の気持ちや相手の気持ちになって考えたことを文章表現できるように演習を中心にして学習する。

[到達目標（授業修了時の達成課題）]

・文章の基本ルールを身につけることができる。
・介護実習の場面で，利用者の状況に気づくことができ，記録に残すことができる。
・介護実習の場面で，指導を受けたことや自身の学習したことを，他の読み手にも理解できるように記録に残すことができる。

[授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法）]

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1　実用文の役割・特徴
2　文章の基本的な作法（ルール）①（形式，句読点など）
3　文章の基本的な作法（ルール）②（構成・敬語表現など）
4　文章の組み立て
5　よくある間違い・・・誤字・略語・略字・話し言葉・文のねじれなど
6　文章の品格・・・正しい敬語・すっきりした文章・読んでもらえる文章
7　医療・介護の専門用語
8　文章作成の基本
9　具体的な内容のある文章を書く
10　「観察したこと」・「気づき」を記録する①（メモをとる）
11　「観察したこと」・「気づき」を記録する②（短文作り）
12　実習記録の意義と目的
13　実習記録の実際①（表現を工夫して書く）
14　実習記録の実際②（ケア場面を捉えて書く）
15　終講試験

[教科書]	[評価方法（科目認定の方法及び基準）]
講師作成プリント	終講試験80％，小テスト20％の結果で評価する。

授 業 概 要

科 目 名	授業の種類	授業回数	時間数	配当時期	必修・選択
介護福祉特論	講義	15回	30時間	2年後期	必修

授業担当者及び実務経験の内容	
専任教員 久留須直也・早水由美子 石場俊秋・中森美恵子	介護福祉士（中森・長友），看護師（上水樽・谷口・早水），社会福祉士（久留須・石場）としての勤務経験を持ち，今まで学んできた知識・技術について講義する。

［ 授業の目的・ねらい ］

介護福祉士国家試験に合格するために必要な知識を習得することを目的とする。

［ 授業全体の内容の概要 ］

2年間に学んだ専門領域（人間と社会・介護・こころとからだのしくみ・医療的ケア）について，苦手分野や頻出分野を学習する。

［ 到達目標（授業修了時の達成課題） ］

介護福祉士国家試験に合格するために必要な知識を習得することができる。

［ 授業計画（授業の各回のテーマ・内容・授業方法） ］

（本科目は，一部，遠隔授業（オンライン授業）で行う場合があります）

1	人間の尊厳と自立・人間関係とコミュニケーション・コミュニケーション技術	担当：中森美恵子
2	社会と制度の理解①（介護保険制度）	担当：久留須直也
3	社会と制度の理解②（障害者総合支援法・年金・医療保険・生活保護等）	担当：久留須直也
4	介護の基本	担当：長友ひろみ
5	生活支援技術①（家庭生活に関わる基本知識・家事の介護）	担当：谷口立子
6	生活支援技術②（自立に向けた生活支援）	担当：室屋勉
7	介護過程	担当：中森美恵子
8	発達と老化の理解	担当：上水樽敏子
9	認知症の理解	担当：長友ひろみ
10	障害の理解①（障害者福祉の法制度，障害者福祉の基本理念）	担当：石場俊秋
11	障害の理解②（障害のある人の生活の理解）	担当：石場俊秋
12	こころとからだのしくみ①（こころとからだのしくみの理解）	担当：早水由美子
13	こころとからだのしくみ②（生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ）	担当：早水由美子
14	医療的ケア	担当：谷口立子
15	終講試験（卒業試験）	

［ 教科書 ］

各科目で使用したテキスト及び講師作成資料

［ 評価方法（科目認定の方法及び基準） ］

以下の基準を，すべて満たした場合，科目認定する。なお，評価点は卒業試験を100点換算し，その点数とする

①本科目の出席が3分の2以上あること

②卒業筆記試験（125問）を実施し，60％以上の得点を取ること

③介護福祉士国家試験と同様に、試験科目11科目群すべてにおいて得点があること

介護福祉士国家試験
出題傾向一覧

介護福祉士国家試験出題傾向一覧
【人間と社会】

領域	[目的]
人間と社会	1.介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。 2.利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。 3.アカウンタビリティ（説明責任）や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。 4.介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や障害者総合支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度第35回	R5年度第36回	R6年度第37回	R7年度	R8年度
人間の尊厳と自立	1　人間の尊厳と人権・福祉理念	1）人間の尊厳と利用者主体	・人間の多面的理解	2問		○			
			・人間の尊厳						
			・利用者主体の考え方、利用者主体の実現		○	○	○		
		2）人権・福祉の理念	・人権思想・福祉理念の歴史的変遷						
			・人権尊重						
		3）ノーマライゼーション	・ノーマライゼーションの考え方、ノーマライゼーションの実現						
		4）ＱＯＬ	・ＱＯＬの考え方		○		○		
	2　自立の概念	1）自立の概念	・自立の考え方			○			
		2）尊厳の保持と自立	・自己決定、自己選択		○				
			・意思決定		○		○		
			・権利擁護、アドボカシー				○		

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度第35回	R5年度第36回	R6年度第37回	R7年度	R8年度
人間関係とコミュニケーション	1　人間関係の形成とコミュニケーションの基礎	1）人間関係と心理	・自己覚知、他者理解、自己開示、ラポール	4問	○		○		
			・グループダイナミクス						
		2）対人関係とコミュニケーション	・コミュニケーションの意義と目			○			
			・コミュニケーションの特徴と過						
			・コミュニケーションを促す環境						
			・対人関係とストレス		○				
		3）コミュニケーション技法の基礎	・言語的コミュニケーション						
			・非言語的コミュニケーション			○	○		
			・物理的距離、心理的距離（パーソナルスペース）						
			・受容、共感、傾聴				○		
			・相談面接の基礎		○				
	2　チームマネジメント	1）介護サービスの特性	・ヒューマンサービスの特性			○			
			・介護実践とマネジメント						
		2）組織と運営管理	・組織の構造と管理			○			
			・福祉サービス提供組織の機能と役割			○			
			・コンプライアンスの遵守						
		3）チーム運営の基本	・チームの機能と構成		○	○	○		
			・リーダーシップ、フォロワー				○		
			・リーダーの機能と役割						
			・業務課題の発見と解決の過程（ＰＤＣＡサイクルなど）						
		4）人材の育成と管理	・ＯＪＴ、Off-ＪＴ、ＳＤＳ		○		○		
			・ティーチング、コーチング						
			・スーパービジョン、コンサルテーション				○		

	試験科目	大項目	中項目	小項目(例示)	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
人間と社会	社会の理解	1　社会と生活のしくみ	1) 生活の基本機能	・生活の概念	計12問					
				・家庭生活機能(生産・労働、教育・養育、保健・福祉、生殖、安らぎ・交流など)						
			2) ライフスタイルの変化	・雇用労働の進行、女性労働の変化、雇用形態の変化						
				・少子化、健康寿命の延長						
				・余暇時間						
				・ワーク・ライフ・バランス						
				・生涯学習、地域活動への参加						
			3) 家族	・家族の概念						
				・家族の構造と形態						
				・家族の機能と役割						
				・家族の変容						
				・家族観の多様性						
			4) 社会、組織	・社会、組織の概念		○	○			
				・社会、組織の機能と役割		○		○		
				・グループ支援、組織化						
			5) 地域、地域社会	・地域、地域社会、コミュニティの概念						
				・地域社会の集団、組織			○			
				・地域社会の変化(産業化、都市化、過疎化など)						
			6) 地域社会における生活支援	・生活支援と福祉			○			
				・自助・互助・共助・公助						
		2　地域共生社会の実現に向けた制度や施策	1) 地域福祉の発展	・地域福祉の理念			○			
				・地域福祉の推進						
			2) 地域共生社会	・地域共生社会の理念(ソーシャル・インクルーション、多文化共生社会など)						
			3) 地域包括ケア	・地域包括ケアの理念						
				・地域包括ケアシステム						
		3　社会保障制度	1) 社会保障の基本的な考え方	・社会保障の理念(意義、目的)						
				・社会保障の概念(機能、役割、範囲)						
			2) 日本の社会保障制度の発達	・日本の社会保障制度の基本的な考え方、憲法との関係性		○		○		
				・戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備						
				・国民皆年金、国民皆保険			○			
				・社会福祉六法						
				・社会福祉基礎構造改革			○			
			3) 日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解	・社会保障の構成(社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生など)						
				・社会保障の財源						
				・社会保障の実施運営体制(社会福祉事務所、保健所など)						
				・民間保険制度						
			4) 現代社会における社会保障制度の課題	・人口動態の変化、少子高齢化						
				・社会保障の給付と負担						
				・社会保障費用の適正化・効率化						
				・持続可能な社会保障制度						
				・地方分権、社会保障構造改革						
		4　高齢者福祉と介護保険制度	1) 高齢者福祉の動向	・高齢者の福祉の動向と課題						
			2) 高齢者福祉に関する制度	・高齢者の福祉に関する法律や制度の歴史的変遷						
				・高齢者の福祉に関する法律や制度の概要						
			3) 介護保険制度	・介護保険制度の目的						
				・介護保険制度の実施体制(国、都道府県、市町村の役割など)			○	○		
				・保険者と被保険者						
				・財源と利用者負担						
				・利用手続き(申請、認定、契約、不服申し立てなど)		○				
				・保険給付サービスの種類・内容		○	○	○		
				・サービス事業者・施設				○		
				・地域支援事業						
				・地域での支援体制(地域包括支援センター、地域ケア会議など)				○		
				・介護保険制度におけるケアマネジメントと介護支援専門員の役割						

		大項目	中項目	小項目(例示)	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
人間と社会	社会の理解	5　障害者福祉と障害者保健福祉制度	1）障害者福祉の動向	・障害児･障害者の福祉の動向と課題	計12問					
			2）障害者の定義	・各法における障害児･障害者の定義						
			3）障害者福祉に関する制度	・障害者の福祉に関する法律や制度の歴史的変遷		○				
				・障害者の福祉に関する法律や制度の概要		○	○			
			4）障害者総合支援制度	・障害者総合支援制度の目的						
				・障害者総合支援制度の実施体制(国、都道府県、市町村の役割など)						
				・児童福祉法の実施体制(国、都道府県、市町村の役割など)				○		
				・財源と利用者負担		○				
				・利用手続き(申請、認定、契約、不服申し立てなど)		○				
				・自立支援給付･障害児施設サービスの種類と内容(介護給付、訓練等給付、自立支援医療、補装具、障害児通所支援、障害児入所支援など)			○	○		
				・サービス事業者、施設						
				・地域生活支援事業						
				・地域での実施体制(協議会など)						
				・障害者総合支援制度におけるケアマネジメントと相談支援専門員の役割						
		6　介護実践に関連する諸制度	1）個人の権利を守る制度	・社会福祉法における権利擁護のしくみ						
				・個人情報保護に関する制度		○				
				・成年後見制度						
				・消費者保護に関する制度			○			
				・児童･障害者･高齢者の虐待防止に関する制度		○				
				・DV防止法						
			2）地域生活を支援する制度	・バリアフリー法						
				・日常生活自立支援事業						
				・高齢者住まい法						
				・災害時に関する制度(災害時要配慮者支援)			○			
			3）保健医療に関する制度	・医療保険制度			○	○		
				・高齢者保健医療制度(特定健康診査など)						
				・生活習慣病予防、その他健康づくりのための施策						
				・難病対策						
				・結核･感染症対策			○			
				・ＨＩＶ／エイズ予防対策						
				・薬剤耐性対策						
			4）介護と関連領域との連携に必要な制度	・医療関係法規(医療関係者、医療関係施設)				○		
				・行政計画(地域福祉計画、老人福祉計画、障害者福祉計画、医療介護総合確保推進法に規定する計画など)の関連性						
			5）貧困と生活困窮に関する制度	・生活保護法の目的				○		
				・保護の種類と内容						
				・保護の実施機関と実施体制			○			
				・生活困窮者自立支援法の概要		○				

介護福祉士国家試験出題傾向一覧
【介護】

領域	［目的］
介護	1.介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。 2.自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。 3.利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。 4.多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。 5.リスクマネジメント等利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
介護の基本	1　介護福祉の基本となる理念	1）介護福祉を取り巻く状況	・家族機能の変化	計10問		○			
			・地域社会の変化						
			・介護需要の変化						
			・介護福祉の発展						
			・介護ニーズの複雑化、多様化			○			
			・介護従事者の多様化						
		2）介護福祉の歴史	・日本における介護の歴史						
			・介護福祉士の成り立ち						
		3）介護福祉の基本理念	・尊厳を支える介護（ノーマライゼーション、ＱＯＬ）						
			・自立を支える介護（自立支援、利用者主体）		○				
	2　介護福祉士の役割と機能	1）介護福祉士の役割	・社会福祉士及び介護福祉士法（定義、義務、名称独占、登録）		○	○	○		
			・医師法第17条及び保助看法第31条の解釈（通知）に基づく内容			○			
			・介護福祉士資格取得者の状況						
		2）介護福祉士の機能	・介護福祉士の活動の場と役割（地域共生社会、介護予防、災害、人生の最終段階、医療的ケア）		○		○		
			・専門職集団としての役割と機能（職能集団、学術団体）						
	3　介護福祉士の倫理	1）専門職の倫理	・職業倫理と法令遵守			○	○		
			・利用者の人権と介護（身体拘束禁止、虐待防止など）			○	○		
			・プライバシーの保護			○			
	4　自立に向けた介護	1）介護福祉における自立支援	・自立支援の考え方			○			
			・利用者理解の視点（ICF、エンパワメント、ストレングス）						
			・意思決定支援						
		2）生活意欲と活動	・社会参加（生きがい、役割、趣味、レクリエーションなど）						
			・アクティビティ						
			・就労に関する支援						
		3）介護予防	・介護予防の意義、考え方（栄養、運動、口腔ケアなど）						
			・介護予防システム						
		4）リハビリテーション	・リハビリテーションの意義、考え方				○		
			・生活を通したリハビリテーション						
		5）自立と生活支援	・家族、地域との関わり						
			・生活環境の整備						
			・バリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方						
	5　介護を必要とする人の理解	1）生活の個別性と多様性	・生活の個別性と多様性の理解（生活史、価値観、生活習慣、生活様式、生活リズムなど）		○	○	○		
		2）高齢者の生活	・高齢者の生活の個別性と多様性の理解						
			・生活を支える基盤（経済、制度、健康など）						
			・生活ニーズ		○				
			・家族、地域との関わり						
			・働くことの意味と地域活動						
		3）障害者の生活	・障害者の生活の個別性と多様性の理解		○				
			・生活を支える基盤（経済、制度、健康など）						
			・生活ニーズ						
			・家族、地域との関わり						
			・働くことの意味と地域活動						
		4）家族介護者の理解と支援	・家族介護者の現状と課題		○				
			・家族会						

介護

	大項目	中項目	小項目(例示)	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
介護の基本	6　介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	1) 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	・地域連携の意義と目的	計10問					
			・ケアマネジメントの考え方		○				
			・地域包括ケアシステム						
		2) 介護を必要とする人の生活の場とフォーマルな支援の活用	・生活の拠点(住環境・地域環境)		○				
			・介護保険サービスの活用		○	○	○		
			・障害福祉サービスの活用						
		3) 介護を必要とする人の生活の場とインフォーマルな支援の活用	・地域住民・ボランティア等のインフォーマルサポートの機能と役割			○			
	7　協働する多職種の役割と機能	1) 他の職種の役割と専門性の理解	・福祉職の役割と専門性		○	○			
			・保健・医療職の役割と専門性		○				
			・栄養・調理職の役割と専門性						
			・その他の関連職種			○			
		2) 多職種連携の意義と課題	・チームアプローチの意義と目的		○		○		
			・チームアプローチの具体的展開		○		○		
	8　介護における安全の確保とリスクマネジメント	1) 介護における安全の確保	・介護事故と法的責任						
			・危険予知と危険回避(観察、正確な技術、予測、分析、対策など)		○				
			・介護におけるリスク(ヒヤリハット、住宅内事故、災害、社会的リスクなど)						
			・リスクマネジメントの意義と目的						
		2) 事故防止、安全対策	・セーフティマネジメント						
			・防火・防災・減災対策と訓練			○	○		
			・緊急連絡システム			○	○		
		3) 感染対策	・感染予防の意義と目的						
			・感染予防の基礎知識と技術			○	○		
			・感染症対策			○	○		
		4) 薬剤の取り扱いに関する基礎知識と連携	・服薬管理の基礎知識			○			
			・薬剤耐性の基礎知識						
	9　介護従事者の安全	1) 介護従事者を守る法制度	・労働基準法と労働安全衛生法				○		
			・労働安全と環境整備(育休・介護休				○		
			・労働者災害と予防				○		
		2) 介護従事者の心身の健康管理	・心の健康管理(ストレスマネジメント、燃え尽き症候群、感情労働)						
			・身体の健康管理(感染予防と対策、腰痛予防と対策など)						

試験科目	大項目	中項目	小項目(例示)	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
コミュニケーション技術	1　介護を必要とする人とのコミュニケーション	1) 介護を必要とする人とのコミュニケーションの目的	・信頼関係の構築	6問					
			・共感的理解			○			
		2) コミュニケーションの実際	・話を聴く技術		○	○			
			・感情を察する技術						
			・意欲を引き出す技術						
			・意向の表出を支援する技術						
			・納得と同意を得る技術						
	2　介護場面における家族とのコミュニケーション	1) 家族とのコミュニケーションの目的	・信頼に基づく協力関係の構築		○	○			
			・家族の意向の表出と気持ちの理解			○			
		2) 家族とのコミュニケーションの実際	・情報共有						
			・話を聴く技術						
			・本人と家族の意向を調整する技術						
	3　障害の特性に応じたコミュニケーション	1) 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際	・視覚障害のある人とのコミュニケーション			○			
			・聴覚・言語障害のある人とのコミュニケーション		○	○			
			・認知・知的障害のある人とのコミュニケーション		○				
			・精神障害のある人とのコミュニケーション						
	4　介護におけるチームのコミュニケーション	1) チームのコミュニケーションの目的	・介護職チーム内のコミュニケーション		○	○			
			・多職種チームとのコミュニケーション			○			
			・情報発信と共有		○	○			
		2) チームのコミュニケーションの実際	・報告・連絡・相談の意義と目的、方法、留意点		○	○			
			・説明の技術(資料作成、プレゼンテーションなど)						
			・会議の意義と目的、種類、方法、留意点						
			・介護記録の意義と目的、種類、方法、留意点						
			・情報の活用と管理(ICTの活用・記録の管理の留意点など)						

	試験科目	大項目	中項目	小項目(例示)	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
介護	生活支援技術	1　生活支援の理解	1) 介護福祉士が行う生活支援の意義と目的	・生活支援の意義	計26問					
				・生活支援の目的						
			2) 生活支援と介護過程	・ICFの視点にもとづくアセスメント						
				・活動・参加すること(生活)の意味と		○				
				・根拠に基づく生活支援技術						
			3) 多職種との連携	・生活支援とチームアプローチ						
		2　自立に向けた居住環境の整備	1) 居住環境整備の意義と目的	・居住環境整備の意義						
				・居住環境整備の目的						
			2) 居住環境整備の視点	・住み慣れた地域での生活の継続			○			
				・安全で住み心地のよい生活の場づくりの工夫						
				・快適な室内環境の整備				○		
				・災害に対する備え						
				・住宅改修			○			
				・住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン			○	○		
			3) 対象者の状態・状況に応じた留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点				○		
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点						
				・集団生活における工夫と留意点		○				
				・在宅生活における工夫と留意点(家族・近隣との関係、多様な暮らし)						
		3　自立に向けた移動の介護	1) 移動の意義と目的	・移動の意義						
				・移動の目的						
			2) 移動介護の視点	・移動への動機づけ						
				・自由な移動を支える介護						
				・用具の活用と環境整備		○				
			3) 移動・移乗の介護の基本となる知識と技術	・基本動作(寝返り、起き上がり、立ち上がり)			○	○		
				・姿勢の保持(ポジショニング、シーティング)			○			
				・歩行の介護		○		○		
				・車いすの介護			○			
				・その他の福祉用具を使用した移動、移乗		○	○	○		
			4) 対象者の状態・状況に応じた留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点			○			
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点						
		4　自立に向けた身じたくの介護	1) 身じたくの意義と目的	・身じたくの意義						
				・身じたくの目的						
			2) 身じたくの介護の視点	・その人らしさ、社会性を支える介護の工夫						
				・生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫						
				・用具の活用と環境整備						
			3) 身じたくの介護の基本となる知識と技術	・整容(洗面、スキンケア、整髪、ひげ、爪の手入れ、化粧など)		○	○	○		
				・口腔の清潔		○		○		
				・衣服着脱		○	○			
			4) 対象者の状態・状況に応じた留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点						
				・咀嚼・嚥下機能が低下している人の留意点						
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点						

		大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
介護	生活支援技術	5　自立に向けた食事の介護	1）食事の意義と目的	・食事の意義	計26問					
				・食事の目的						
			2）食事介護の視点	・おいしく食べることを支える介護の工夫			○	○		
				・用具の活用と環境整備				○		
			3）食事介護の基本となる知識と技術	・食事の姿勢		○	○	○		
				・誤嚥、窒息、脱水の気づきと対応		○	○	○		
			4）対象者の状態・状況に応じた介護の留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点			○	○		
				・咀嚼・嚥下機能が低下している人の留意点		○	○	○		
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点		○		○		
		6　自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1）入浴・清潔保持の意義と目的	・入浴・清潔保持の意義						
				・入浴・清潔保持の目的						
			2）入浴・生活保持の介護の視点	・安楽・快適な入浴を支える介護の工夫		○	○	○		
				・用具の活用と環境整備						
			3）入浴・清潔保持の介護の基本となる知識と技術	・入浴			○	○		
				・シャワー浴						
				・部分浴（手、足、陰部など）			○			
				・清拭		○		○		
				・洗髪		○		○		
			4）対象者の状態・状況に応じた介護の留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点			○			
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点			○	○		
		7　自立に向けた排泄の介護	1）排泄の意義と目的	・排泄の意義						
				・排泄の目的						
			2）排泄介護の視点	・気持ちよい排泄を支える介護の工夫		○	○	○		
				・用具の活用と環境整備						
			3）排泄介護の基本となる知識と技術	・トイレ						
				・ポータブルトイレ				○		
				・採尿器・差し込み便器						
				・おむつ		○	○	○		
			4）対象者の状態・状況に応じた留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点		○	○			
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点						
				・失禁、便秘・下痢などがある人の留意点		○	○	○		
		8　自立に向けた家事の介護	1）家事の意義と目的	・家事の意義						
				・家事の目的						
			2）家事支援の視点	・家事をすることを支える介護						
				・用具の活用と環境整備						
			3）家事支援の基本となる知識と技術	・家庭経営、家計の管理			○			
				・買い物						
				・衣類・寝具の衛生管理（洗濯、裁縫など）				○		
				・調理、献立、食品の保存、衛生管理		○		○		
				・掃除・ごみ捨て		○				
			4）対象者の状態・状況に応じた留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点			○			
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点						

		大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
介護	生活支援技術	9　休息・睡眠の介護	1）休息・睡眠の意義と目的	・休息と睡眠の意義	計26問					
				・休息と睡眠の目的						
			2）休息・睡眠の介護の視点	・活動に繋がる休息を支える介護の工夫				○		
				・心地よい眠りを支える介護の工夫			○	○		
				・休息と睡眠の環境整備		○	○			
			3）休息・睡眠の基本となる知識と技術	・安眠を促す方法（安楽な姿勢、寝具の選択と整え、リラクゼーションなど）		○	○	○		
				・生活リズム						
				・不眠時の対応				○		
			4）対象者の状態・状況に応じた留意点	・感覚機能、運動機能、認知機能、知的機能が低下している人の留意点						
				・身体疾患、精神疾患がある人の留意点						
		10　人生の最終段階における介護	1）人生の最終段階にある人への介護の視点	・人生の最終段階の社会的、文化的、心理的、身体的意義と目的						
				・尊厳の保持			○	○		
				・アドバンス・ケア・プランニング			○			
				・家族や近親者への支援		○				
			2）人生の最終段階を支えるための基本となる知識と技術	・終末期の経過に沿った生活支援		○		○		
				・臨終時のケア						
				・死後のケア						
			3）家族、介護職が「死」を受け止める過程	・死の準備教育						
				・グリーフケア						
				・デスカンファレンス			○			
		11　福祉用具の意義と活用	1）福祉用具活用の意義と目的	・福祉用具活用の意義と目的（社会参加、外出機会の拡大、快適性・効率性、介護者負担の軽減）			○			
			2）福祉用具活用の視点	・自己実現				○		
				・福祉用具が活用できるための環境整備			○			
				・個人と用具をフィッティングさせる視点		○	○	○		
				・福祉機器利用時のリスクとリスクマネジメント			○			
			3）適切な福祉用具選択の知識と留意点	・福祉用具の種類と制度（介護保険、障害者総合支援法）の理解						
				・移動支援機器の活用		○				
				・介護ロボットの活用						
		その他		・余暇活動			○	○		

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
介護過程	1　介護過程の意義と基礎的理解	1）介護過程の意義と目的	・介護過程展開の意義	8問					
			・介護過程展開の目的		○		○		
		2）介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点	・インテーク			○			
			・アセスメント（意図的な情報収集・分析、ニーズの明確化・課題の抽出）			○	○		
			・計画立案（目標の共有）		○		○		
			・実施（経過記録）						
			・評価（評価の視点、再アセスメント・修正）		○	○	○		
	2　介護過程とチームアプローチ	1）介護過程とチームアプローチ	・介護サービス計画（ケアプラン）と介護過程の関係		○				
			・他の職種との連携			○			
			・カンファレンス						
			・サービス担当者会議				○		
	3　介護過程の展開の理解	1）対象者の状態、状況に応じた介護過程の展開	・自立に向けた介護過程の展開の実際		○	○	○		
			・事例報告、事例検討、事例研究			○	○		

介護福祉士国家試験出題傾向一覧
【こころとからだのしくみ】

領域 ［目的］

1.介護実践に必要な知識という観点から、からだとこころのしくみについての知識を養う。

2.増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
こころとからだのしくみ	1　こころとからだのしくみⅠ ア　こころのしくみの理解	1）健康の概念	・ＷＨＯの定義	計12問					
		2）人間の欲求の基本的理解	・基本的欲求			○			
			・社会的欲求						
		3）自己概念と尊厳	・自己概念に影響する要因						
			・自立への意欲と自己概念						
			・自己実現と生きがい						
		4）こころのしくみの理解	・脳とこころのしくみの関係		○		○		
			・学習･記憶･思考のしくみ		○				
			・感情のしくみ						
			・意欲･動機づけのしくみ						
			・適応と適応規制						
	イ　からだのしくみの理解	1）からだのしくみの理解	・からだのつくりの理解（身体各部の名称）		○		○		
			・人体の構造と機能		○	○	○		
			・細胞･組織･器官･器官系			○			
		2）生命を維持するしくみ	・恒常性（ホメオスタシス）						
			・自律神経系			○			
			・生命を維持する徴候の観察（体温、脈拍、呼吸、血圧など）				○		
	2　こころとからだのしくみⅡ ア　移動に関連したこころとからだのしくみ	1）移動に関連したこころとからだのしくみ	・移動の意味						
			・基本的な姿勢･体位保持のしくみ		○				
			・座位保持のしくみ						
			・立位保持のしくみ						
			・歩行のしくみ						
			・重心移動、バランス						
		2）機能の低下･障害が移動に及ぼす影響	・移動に関連する機能の低下･障害の原因						
			・機能の低下･障害が及ぼす移動への影響（廃用症候群、骨折、褥瘡など）		○	○			
		3）移動に関するこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	・移動に関する観察のポイント						
	イ　身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1）身じたくに関連したこころとからだのしくみ	・身じたくの意味						
			・顔を清潔に保つしくみ						
			・口腔を清潔に保つしくみ		○		○		
			・毛髪を清潔に保つしくみ						
			・衣服着脱をするしくみ						
		2）機能の低下･障害が身じたくに及ぼす影響	・身じたくに関連する機能の低下･障害の原因						
			・機能の低下･障害が及ぼす身じたくへの影響						
			・口腔を清潔に保つことに関連する機能の低下･障害の原因		○		○		
			・機能の低下･障害が及ぼす口腔を清潔に保つことへの影響（歯周病、むし歯、歯牙欠損、口腔炎、嚥下性肺炎、口臭など）				○		
		3）身じたくに関するこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	・身じたくに関する観察のポイント						
	ウ　食事に関連したこころとからだのしくみ	1）食事に関連したこころとからだのしくみ	・食事の意味						
			・からだをつくる栄養素			○			
			・１日に必要な栄養量･水分量						
			・食欲･おいしさを感じるしくみ（空腹、満腹、食欲に影響する因子、視覚･味覚･嗅覚など）						
			・食べるしくみ（姿勢･摂食障害、咀嚼と嚥下）		○				
			・咀嚼と嚥下のしくみ（先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期）						
			・消化･吸収のしくみ				○		
			・のどが渇くしくみ						
		2）機能の低下･障害が食事に及ぼす影響	・食事に関連する機能の低下･障害の原因		○	○			
			・機能の低下･障害が及ぼす食事への影響（誤嚥、低血糖･高血糖、食事量の低下、低栄養、脱水など）		○	○			
		3）食事に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	・食事に関する観察のポイント		○				

		大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度第35回	R5年度第36回	R6年度第37回	R7年度	R8年度
こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみ	エ　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1）入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	・入浴・清潔保持の意味	計12問					
				・入浴の効果と作用			○			
				・皮膚、爪の汚れのしくみ			○	○		
				・頭皮の汚れのしくみ						
				・発汗のしくみ						
				・リラックス、爽快感を感じるしくみ						
			2）機能の低下・障害が入浴・清潔保持に及ぼす影響	・入浴・清潔保持に関連する機能の低下・障害の原因						
				・機能の低下・障害が及ぼす入浴・清潔の保持への影響（血圧の変動、ヒートショック、呼吸困難、皮膚の状態の変化など）				○		
			3）入浴・清潔保持に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	・入浴・清潔保持に関する観察のポイント				○		
		オ　排泄に関連したこころとからだのしくみ	1）排泄に関連したこころとからだのしくみ	・排泄の意味						
				・尿が生成されるしくみ			○			
				・排尿のしくみ（尿の性状、量、回数含む）						
				・便が生成されるしくみ		○				
				・排便のしくみ（便の性状、量、回数含む）						
				・排泄における心理						
			2）機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響	・排泄に関連する機能の低下・障害の原因		○				
				・機能の低下・障害が排泄に及ぼす影響（頻尿、失禁、下痢、便秘など）			○			
			3）生活場面における排泄に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの	・排泄に関する観察のポイント						
		カ　休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1）休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	・休息・睡眠の意味				○		
				・睡眠時間の変化						
				・睡眠のリズム				○		
			2）機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響	・休息・睡眠に関連する機能の低下・障害の原因			○	○		
				・機能の低下・障害が休息・睡眠に及ぼす影響（生活リズムの変化、活動性の低下、意欲の低下など）						
			3）生活場面における休息・睡眠に関連したこころとからだの変化の気づきと医療職などとの連携	・休息・睡眠に関する観察のポイント		○	○			
		キ　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ	1）人生の最終段階に関する「死」の捉え方	・生物学的な死、法律的な死、臨床的な死				○		
				・アドバンス・ケア・プランニング						
			2）「死」に対するこころの理解	・「死」に対する恐怖・不安						
				・「死」を受容する段階						
				・家族の「死」を受容する段階		○				
			3）終末期から危篤状態、死後のからだの理解	・終末期から危篤時の身体機能の低下の特徴		○				
				・死後の身体変化						
			4）終末期における医療職との連携	・終末期から危篤時に行われる医療の実際（呼吸困難時、疼痛緩和など）						
				・終末期から危篤期、臨終期の観察ポイント		○	○	○		

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度第35回	R5年度第36回	R6年度第37回	R7年度	R8年度
発達と老化の理解	1　人間の成長と発達の基礎的理解	1）人間の成長と発達の基礎的知識	・成長・発達	計8問	○	○	○		
			・発達段階と発達課題		○	○			
		2）発達段階別に見た特徴的な疾病や障害	・胎児期						
			・乳児期						
			・幼児期						
			・学童期						
			・思春期						
			・青年期						
			・成人期						
		3）老年期の基礎的理解	・老年期の定義						
			・老化の特徴			○			
			・老年期の発達課題（人格と尊厳、老いの価値、喪失体験、セクシュアリティなど）		○		○		

こころとからだのしくみ

	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
発達と老化の理解	2　老化に伴うこころとからだの変化と生活	1）老化に伴う身体的･心理的･社会的変化と生活	・老化に伴う心身の変化と特徴（予備力、防衛力、回復力、適応力、恒常性機能、フレイルなど）	計8問			○		
			・身体的機能の変化と生活への影響		○		○		
			・心理的機能の変化と生活への影響				○		
			・社会的機能の変化と日常生活への影響						
			・認知機能、知的機能の変化と日常生活への影響				○		
			・高齢者の心理的理解（喪失、身近な人の死など）		○		○		
		2）高齢者と健康	・高齢者の健康			○			
			・健康寿命			○			
			・サクセスフルエイジング		○		○		
			・プロダクティブエイジング						
			・アクティブエイジング						
		3）高齢者に多い症状･疾患の特徴と生活上の留意点	・高齢者の症状、疾患の特徴		○	○	○		
			・老年症候群				○		
			・高齢者に多い疾患		○	○			
		4）保健医療職との連携	・保健医療職との連携、介護福祉士の役割						

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
認知症の理解	1　認知症を取り巻く状況	1）認知症ケアの歴史	・社会的環境と価値観の変化と認知症の捉え方	10問					
		2）認知症ケアの理念	・パーソンセンタード･ケア						
		3）認知症のある人の現状と今後	・認知症のある人の数の推移など						
		4）認知症に関する行政の方針と施策	・認知症のある人への支援対策（認知症施策推進総合戦略、権利擁護対策など）		○	○	○		
	2　認知症の医学的･心理的側面の基礎的理解	1）認知症の基礎的理解	・脳の構造、機能						
			・認知症の定義・診断基準						
			・認知機能検査				○		
		2）認知症のさまざまな症状	・中核症状の理解		○	○			
			・ＢＰＳＤの理解			○			
		3）認知症と間違えられやすい症状･疾患	・うつ病、せん妄など			○	○		
		4）認知症の原因疾患と症状	・アルツハイマー型認知症		○		○		
			・血管性認知症			○	○		
			・レビー小体型認知症			○	○		
			・前頭側頭型認知症						
			・その他（正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、クロイツフェルト･ヤコブ病など）		○				
		5）若年性認知症	・発症期（初老期、若年期）別の課題			○			
		6）認知症の予防･治療	・認知症の危険因子				○		
			・軽度認知機能障害						
			・薬物療法（薬の作用･副作用）			○			
		7）認知症のある人の心理	・認知症が及ぼす心理的影響			○			
			・認知症のある人の特徴的なこころの理解（不安、喪失感、混乱、怯え、孤独感、焦燥感、怒り、悲しみなど）			○	○		
	3　認知症に伴う生活への影響と認知症ケア	1）認知症に伴う生活への影響	・認知症のある人の生活のアセスメント						
			・認知症のある人の日常生活と社会生活			○			
		2）認知症ケアの実際	・本人主体のケア（意思決定支援）				○		
			・認知症のある人とのコミュニケーション		○				
			・認知症のある人への生活支援（食事、排泄、入浴･清潔の保持、休息と睡眠、活動など）						
			・環境への配慮						
		3）認知症のある人への関わり	・リアリティ・オリエンテーション（ＲＯ）、回想法、音楽療法、バリデーション療法など			○	○		
	4　連携と協働	1）地域におけるサポート体制	・地域包括支援センターの役割と機能						
			・コミュニティ、地域連携、まちづくり						
			・ボランティアや認知症サポーターの役割		○				
			・認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム				○		
		2）多職種連携と協働	・多職種協働の継続的ケア						
			・認知症ケアパス		○				
			・認知症ライフサポートモデル		○				
	5　家族への支援	1）家族への支援	・家族の認知症の受容の過程での支援						
			・家族の介護力の評価						
			・家族のレスパイト			○			

	試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
こころとからだのしくみ	障害の理解	1　障害の基礎的理解	1）障害の概念	・障害の捉え方	10問					
				・障害の定義						
			2）障害者福祉の基本理念	・ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン、IL運動、アドボカシー、エンパワメント、ストレングス、国際障害者年の理念など		○	○	○		
			3）障害者福祉の現状と施策	・意思決定支援						
				・成年後見制度			○			
				・障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法		○		○		
				・就労の支援						
		2　障害の医学的･心理的側面の基礎的理解	1）障害のある人の心理	・障害が及ぼす心理的影響						
				・障害受容の過程		○	○			
				・適応と適応規制						
			2）障害の理解	・身体障害の種類、原因と特性		○	○	○		
				・知的障害の種類、原因と特性						
				・精神障害の種類、原因と特性		○	○			
				・発達障害の種類、原因と特性		○				
				・高次脳機能障害の原因と特性				○		
			3）難病の理解	・難病の種類と特性			○			
		3　障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援	1）障害に伴う機能の変化と生活への影響の基本的理解	・障害のある人の特性を踏まえたアセスメント（ライフステージ、機能変化、家族との関係など）				○		
			2）生活上の課題と支援のあり方	・ライフステージの特性と障害の影響						
				・身体障害のある人の生活理解と支援			○	○		
				・知的障害のある人の生活理解と支援						
				・精神障害のある人の生活理解と支援		○		○		
				・発達障害や高次脳機能障害のある人の生活理解と支援				○		
				・難病のある人の生活理解と支援						
			3）ＱＯＬを高める支援のための理解	・合理的配慮						
				・バリアフリー、ユニバーサルデザイン						
				・障害のある人への各種の手帳						
		4　連携と協働	1）地域におけるサポート体制	・関係機関や行政、協議会、ボランティアなどとの連携		○				
			2）多職種連携と協働	・他の福祉職との連携と協働		○	○	○		
				・保健医療職との連携と協働		○				
		5　家族への支援	1）家族への支援	・家族の障害の受容の過程での支援						
				・家族の介護力の評価			○			
				・家族のレスパイト				○		

介護福祉士国家試験出題傾向一覧
【医療的ケア】

領域	［目的］
医療的ケア	1.医療的ケアとは何か。なぜ医療的ケアを学ぶのかを理解する。 2.医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識を身につける。 3.医療的ケアを実施する際の留意点や緊急時の対応を理解する。 4.医療的ケアを安全かつ適切に実施するための技術を身につける。

試験科目	大項目	中項目	小項目（例示）	出題数	R4年度 第35回	R5年度 第36回	R6年度 第37回	R7年度	R8年度
医療的ケア	1　医療的ケア実施の基礎	1）人間と社会	・介護職の専門的役割と医療的ケ	5問		○			
			・介護福祉士の倫理と医療の倫理						
			・介護福祉士などが喀痰吸引などを行うことに係る制度						
		2）保健医療制度とチーム医療	・保健医療に関する制度						
			・医療的行為に関係する法律			○			
			・チーム医療と介護職員との連携						
		3）安全な療養生活	・痰の吸引や経管栄養の安全な実						
			・リスクマネジメント						
			・救急蘇生法				○		
		4）清潔保持と感染予防	・療養環境の清潔、消毒法						
			・感染管理と予防（スタンダードプリコーション）						
			・滅菌と消毒		○				
		5）健康状態の把握	・こころとからだの健康						
			・健康状態を把握する項目（バイタルサインなど）		○				
			・急変状態の把握						
	2　喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）	1）喀痰吸引の基礎的知識	・吸引のしくみとはたらき			○	○		
			・喀痰吸引が必要な状態と観察のポイント				○		
			・喀痰吸引法						
			・喀痰吸引実施上の留意点		○				
			・吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意		○				
			・呼吸器系の感染と予防（吸引と関連して）						
			・喀痰吸引により生じる危険と安全確認						
			・急変・事故発生時の対応と連携						
			・子どもの喀痰吸引						
		2）喀痰吸引の実施手順	・喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔操作と清潔の保			○			
			・喀痰吸引の技術と留意点			○	○		
			・喀痰吸引に必要なケア				○		
			・報告及び記録						
	3　経管栄養（基礎的知識・実施手順）	1）経管栄養の基礎的知識	・消化器系のしくみとはたらき						
			・経管栄養が必要な状態と観察のポイント				○		
			・経管栄養法						
			・経管栄養実施上の留意点		○				
			・経管栄養に関係する感染と予防						
			・経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意		○		○		
			・経管栄養により生じる危険と安全確認			○			
			・急変・事故発生時の対応と連携		○	○			
			・子どもの経管栄養						
		2）経管栄養の実施手順	・経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔操作と清潔の保持			○			
			・経管栄養の技術と留意点			○			
			・経管栄養に必要なケア				○		
			・報告及び記録						

学 校 法 人　南 学 園
鹿児島医療福祉専門学校
介　護　福　祉　学　科
〒890-0034
鹿児島市田上八丁目21番3号
TEL　099-281-9956（直通）
FAX　099-299-2111（直通）